



その人、田池留吉

田池留吉の世界

塩川香世



その人、
田池留吉／目次

1. お断りとお願い 4
2. パソコンに向いながら、思うこと…… 18
3. 田池留吉のご挨拶 24
4. 田池留吉の世界へ 31
5. 田池留吉の世界を感じていこう 77
6. 田池留吉を思う喜び 86
7. 心に向ける、合わせる 98
8. 田池留吉とは、遠い、遠い過去からのお付き合いがありました
9. 父との対話を試みました 162
10. 田池留吉語録 192
11. あとがき 225

その人、田池留吉

— 田池留吉の世界 —

1. お断りとお願ひ

「田池留吉」と呼び捨てにすることを容赦ください。

その人、田池留吉は、大阪府南河内郡在住の一老人です。

昔、大阪府立の高等学校の教諭をしておられ、定年まであと一年を残す時期に、校長職で退職されました。

定年まで待たずに校長職を辞され、それ以後は、自ら期することに、自分のすべてを費やされてきた人です。

これまでに、その人のもとに集い学んでこられた人達は、全国各地にたくさんおられます。海外在住の人達もいます。

私もこの人のもとで学ばせていただいた一人です。

私は、田池留吉との出会いを心の底から嬉しく思っています。

それは、ただ単なる人と人の出会いではありませんでした。本当に出会うべくして出会った私達だったのです。

私は、田池留吉との出会いがあったからこそ、自分がなぜ生まれてきたのか、何をするために生まれてきたのかということを、はっきりと心で知ることができました。

そして、心で知ることができたから、私は今、本当に幸せです。

田池留吉の存在により、自分というものが、私の中ではつきりとしてきたのです。

田池留吉もまた、私の出現を大変喜んでくれました。心から喜んでくれました。

自ら期することがあって、自分のすべてを費やして伝えてきたことが証明されたことを、心から喜んでいただきました。

「いかに予定通り、計画通りとはいえ、自分が提示してきた事柄を、心で証明する人が現れなかったら、私は生まれてきた意味がなかった」と、私は、

これまでに、田池留吉より繰り返し聞かせていただきました。

今、私は、証^{あか}し人を、待つて待つて待ち続けてくれていた田池留吉の熱い思いに、充分に応えていけることを感じています。私の心を感じている感謝と喜びの思いを、その人、田池留吉の世界に向けて、綴^{つづ}つてみたいと思いました。

ただし、私は、本書で、その人、田池留吉の経歴および人となりをご紹介するつもりはありません。

また、誠に恐縮ですが、本書を読んでいただく前に、ぜひとも、田池留吉著『意識の流れ』、『続意識の流れ』に目を通していただければと思います。

それは、ある程度の予備知識があれば、本書の内容がスムーズに、あなたの中に入っていくのではないかと思うからです。

もちろん、UTAブックさんから出版されている『意識の流れ』シリーズを読んでいただいておくと、さらにご理解が深まるかと思います。

さて、田池留吉と私の出会いは、遡^{さかのぼ}ること、十七年の年月が流れています。

一九九三年四月、場所は、熱海のとあるホテルのセミナー会場でした。

新幹線の車窓から、くつきりとした富士の山を気分よく眺めながら、私は、熱海の駅に、一人降り立ちました。

そして、セミナー会場の最前列のテーブルに陣取り、私は、田池留吉をお迎えたのでした。

それが、私の宿泊を伴うセミナー参加の始まりでした。

今思えば、私は、教えを請うというよりも、宣戦布告のラッパを鳴らして、田池留吉の世界に乗り込んでいったという感じです。

もちろん、当時は、そんな大それた思いを抱きながら、セミナーに参加していたとは、知る由もありませんでした。

私は、自分の周りに起こった出来事から、ようやく重い腰を上げて学び始めたのでした。

今は昔の話です。そんな私が、よくここまで学んできたなあ、いいえ、学ばせていただいたと、深く感謝しています。

しかし、懐かしさに浸っている時間はありません。

その人、田池留吉、田池留吉の世界を、心で知っていく方向に、私は、全力を傾けようと思います。

出会うべくして出会ったこの出会いを、私は、自分の中で味わい尽くしたい、何かそのような感じですよ。

まだまだ力量不足の感がありますが、今、私はそうできる条件が整っており、嬉しい作業をさせていただけることを喜んでいきます。

ところで唐突ですが、あなたは「転生^{てんしやう}」という言葉を知っていますか。

私達人間は転生^{てんしやう}をする、つまり、生まれ変わってくるのです。しかも、私達人間は人間にしか生まれ変わってきません。人間以外の生き物に転生^{てんしやう}があ

るのかということ、ここでは少しおくとしまして、私達人間には、確かに生まれて死んで、また生まれてくるといった転生てんしやうがあります。

そもそも、なぜ、私達人間には、その転生てんしやうがあるのでしょうか。

それは、自分達の間違いを正すためにあるのです。そのために、私達は、これまでに数限りない転生てんしやうを繰り返してきました。

しかし、私達は、この世に生まれてくると、間違いを正すどころか、いいえ、間違いが何であるのかさえも分からないまま、さらに間違いの上塗りをしていったのです。

それは、私達人間の本当の姿はこうですよと、誰も教えてくれなかったからです。

そのような中で、田池留吉という人物は、私達に、これまで懇切丁寧に、その一点について語ってくれました。ようやく、そういう人物が私達の目の前に出現してくれたのでした。ただし、田池留吉の話だけでは、とても信じられる内容のものではありません。たとえば、何千回、何万回、話を聞いたと

しても、やはり、今、目に見えて耳に聞こえて触れることのできる形ある世界が現実だという思いは、大変根強いです。それは、今の私達にとって疑う余地もないことでしょう。その世界を中心にして、その中で、自分達の幸福と繁栄を追求していくことについて、程度の差こそあっても、根本的に誰も異論はないのが現実です。

その現実を前にして、田池留吉の伝えてきたことが、一人ひとりの心の中に本当に浸透していくには、まだまだ時間を要します。

しかし、田池留吉が語ってきたことは「本当のことだった」と、必ず、私達に提示されていきます。

具体的には天変地異です。人的災害も含めて、これから起こってくる天変地異のエネルギーの大きさは、これまでの私達人間の体験や経験を遙かに超えた規模のものです。今までの体験や経験では、とても対処できない規模の天変地異が続発してきます。私達人間の間違いを正すためには、もう、それしかないことを、これまでに田池留吉は何度も何度も、繰り返し語ってくれ

ていました。

転生^{てんしやう}というところから、少々、先を行き過ぎました。話を戻します。

今は、経済が先行する時代ですが、たとえば、豊かで快適な暮らしがあり、物質的に満たされていても、心の平安がなければ、本当に幸せだとは言えないという人もいるでしょう。確かにお金では解決できないことがあります。確かにそうです。たとえば、どんなに経済発展を遂^とげようが、人間の心はそれだけでは満たされるものではありません。そこまでは、みんな何となくそう思っていると思います。

では、心の平安を得るにはどうすればいいのかということになれば、それはつきりと分らないのです。

分らないから、怪しげなものに心を寄せていく始末です。満たされない心を人間は抱えています。根本的に寂しい心とでもいうのでしょうか。しかし、その心をどのように癒^いやしていいのか分らないのです。いわゆる

靈感商法が後を絶たないのも、その一例です。先祖の崇り^{たた}、過去からの因縁など、全くバカバカしいです。

しかし、それをまともに受け、大枚を支払い、いいえ、それどころか、身も心も投げ打って、骨抜きにされてしまったという何とも哀れな現実が後を絶ちません。

一方、田池留吉のもとに集ってこられた人達の多くも、宗教遍歴を重ねてこられた人達です。宗教遍歴とは、いわゆる現世利益です。

あるいは、精神世界に興味があるとか、パワーが好きだとか、言ってみれば、田池留吉の伝えようとする中身とは、全く相容れないものを目指して、学びに集ってこられたというのが、実際のところでした。

そういう人達からすると、この学びは、何とも難しいのです。

この学びで言うことは、決まっています。

【あなた、自分の心を見てください】

そして、「あなたが見下してきた、嫌ってきた母親の反省をしろ」と言われて、最初は、誰でも面喰らうのではないでしょう。

その上、拝んで祭って念じて、そして、お金を積めば願いは届く、祈りは通じると信じてきた心癖や、田池留吉という人物も、また、救世主か何かのようにとらえ、偶像崇拜の対象物として見る心癖がしつかりと根付いています。その中で、その心の奥底に渦巻くエネルギーを感じていきなさいなんて言われて、すんなりと、ああ、そうですかとはならないし、そう簡単にそれらの心癖をご破算にできるものでもないでしょう。

それもすべて承知の上で、田池留吉は、手取り足取り伝えてくれました。

伝えることが自分の喜びと語り、淡々と伝えてくれたその中身は、それは、それは、大変なものでした。

それは、それは、大変な中身を、言葉で表現する限界を感じながらも、私は、田池留吉とともに学ばせていただいたことを感謝して、その思いを何らかの形に残しておきたいと思いました。

おそらく、これからの私は、その人、田池留吉、田池留吉の世界という大きなテーマのもとに自分の心を合わせて、そこから発せられるメッセージを通して、田池留吉の世界を伝えていく方向に進んでいくと思います。

田池留吉の世界を伝えていく方向とは、私達の本質である意識、その世界の真実を、これからの社会現象の中で淡々と語っていくことを言います。

『その人、田池留吉―田池留吉の世界―』という題名の本が、これからシリーズとして、本棚に並び、末永く愛読していただければ、そして、この本とともに私も、そして、あなたも、喜びの道を一步步進んでいくことができましたならば、これに優る幸せはないと思います。

ところで、田池留吉とともに学んでこられた人ならばいざ知らず、初めて、田池留吉という文字を目にした人にとつては、田池留吉の世界と言われても、あまりにも唐突過ぎて、何か胡散臭い^{うさんくさ}なあと敬遠されると思います。

その人の顔はおろか、あなたの手許には、今現在、田池留吉という人物に

ついて、何も情報がありません。

しかし、安心してください。

私達には、あなたを洗脳する思いなど微塵みじんもありません。

もちろん、金品も要求しなければ、「会員を集めなさい」とか、「奉仕活動をしなさい」とか、そのような類たぐいのことは、何もありません。

私達は、あなたが、本当のことに出会っていつていただきたいと、心から思うだけです。

しかしながら、あなたもご承知のように、世間には、ここは本物ですよ、あなたはこうすれば幸せになりますよ、あなたの人生の展望が開けていきますよ、といった類たぐいのものは、そこかしこにあります。

なるほど、上手な表現で、人によつては、そして、場合によつては、適切なアドバイスになるかもしれません。

ただ、それらと、田池留吉が言ってきたこととは、決定的な違いがあります。まず、それをあなたの頭で理解していただきたいのです。

田池留吉という人物が言わんとしていることを、まず、あなたの頭で理解して、それから、その次に、あなたの心で感じていく方向に進んでいくことができれば、ベストです。

頭で理解することはいいとして、心で感じていくとはどういうことなのか、いいえ、それよりも、やはり、自分が見も知らない人の世界に心を向けていくことに、少々の不安とか、戸惑いを感じるのは当たり前だと思います。

中には、うっかりと心を向けて、遠隔的に操られるのではないか、そんなことを思っておられる人もあるかもしれません。

しかし、今一度、申し上げます。そういうことは、一切、心配ご無用です。ただ、前準備は必要だと思えます。前準備というのは、先にご紹介しました田池留吉著『意識の流れ』、『続意識の流れ』を読んでもいただくことです。

田池留吉という人が、心血を注ぎ、誠心誠意、私達に伝えてくれたもの、その中身は、今まで、誰も教えてくれなかったものです。

従って、その中身が私達に浸透していくには、当然のことながら、まだまだ

だ時間を要します。

ですから、意識の流れという言葉をも、初めて耳にされる人であるならば、まず、田池留吉著『意識の流れ』を手許に置いてください。

平易な文章で綴られています。価格も手頃です。ぜひ読んでください。

再度、申し上げます。

私達にあるのは、あなたに本当のことを知っていただいて、あなたの生き様を振り返っていただきたい、そして、これからの進むべき方向を確認していただきたいという思いだけです。

もつとはつきりと申し上げるならば、あなたは、あなたの本当の姿を知っていく方向に生きていくてくださいということです。

私達には、その他の思いは、一切ございません。

2. パソコンに向いながら、思うこと……

さて、私は、直近^{ちよつきん}に、『第二の人生——ラストチャンスです——』という題名の本を発刊させていただいています。

読んでいただいた人はお分かりのように、あの本には、田池留吉という文言は一切使われていません。

私は、あえて、そのようにしました。

本の最後のほうに記した正しい瞑想ということについても、実は、ズバリ、田池留吉に心を向けることだと記したかったです。

しかし、私は、あのような表現で留めました。意図的に留めました。

それは、私の中に、田池留吉の世界を、どこかの教祖や開祖、指導者などと同程度のレベルにとらえてほしくないという思いが、あったからです。

田池留吉とともに、長年学び続けてこられた人達の中にさえも、まだまだ、田池留吉が言わんとするところを、的確にとらえることができない人達が大量にいます。

ましてや、そうでない人達に、いきなり、田池留吉に心に向けてくださいと言ってみても……と思ったので、私は、あえて、そこまで踏み込みませんでした。

私には、本気で、真剣に自分の人生を考えていこうとする人達や、自分の生き方について考え直していこうとする人達に、何らかのメッセージをお伝えしたいという思いがあります。

もちろん、『第二の人生——ラストチャンスです——』という本も、そういう思いから書かせていただきました。

『第二の人生——ラストチャンスです——』という本を読んでいただいて、さらにそこから本格的にやってみようと思う人達に、本書を通じて、私の熱い

思いを語っていきたいと思っています。

その思いが、どこまで心に響いていくか、率直に申し上げて未知数です。

私は、ある面、それは仕方がないことだと思っています。

自分達がつ作ってきた意識の世界は、そう簡単には変えることができないことを、私は、学びの年月を通じて、たくさんの人達から感じさせていただきました。

やはり、自分達を形あるものとしてとらえる思いは、断然強いのです。

どんなに、そうではないんだと頭は納得しても、心、意識は、そう容易く^{たやす}納得しない、それが残念ながら現実だと、私は、思っています。

しかし、私は、その現実をきちんと認識して、その上で、自分のやっていくことは、これしかないという思いを、どなたも持ち続けてほしいと思っています。

その思いが、このようにして、パソコンのキーを打たせるのかもしれない。

今世という時間を共有して、ともに学ばせていただいた人達があります。また、これからやっていこうとする人達もあると思います。

一人でも多くの人が、きちんと、自分の進むべき方向が自分の中で定まっていって、感觸を味わうことができたならと思います。

しかし、実はそれだけではないのです。

私に、パソコンのキーを打たせるもうひとつの訳があります。

私の中に次のような思いがあるのです。

それは、今現在、田池留吉という人の顔さえも全く知らずにいても、これからの時を経て、田池留吉の世界に呼応してくる人達（意識）の存在です。

私の中に、その意識達に向けて語りたいという思いがあります。

その意識達は、必ず、これからの時を経て、私達と合流することを、私は感じています。

今世は、出会うこともなく、全く学ぶ時間と空間を共有できなかったかも

しれないけれど、必ず、私達に呼応してくる意識達があるのです。その意識達に向けて、語っていきたいという思いは、私の中に、ずっと以前よりありました。

とは言うものの、もちろん、そういう人達（意識）が、どこかで本書を読んでいただければ、それに越したことはありませんし、こんなに嬉しいことはありません。

しかし、たとえ、そうでなくても、私はいいと思っています。

語りたい思いは、それを形にする過程で、とどこお滞りなく伝わっていくと信じているからです。

私は、それこそが、意識の世界ならでは、なせることだとも思っています。パソコンのキーを打つ作業の中で、私の意識は、田池留吉という方向を向きます。

つまり、そういう時間を持たせていただくということ、そのこと自体に、何よりも大きな意味があり大切なことだと、私は思っているのです。

さらには、その結果、本という形となっていくのだから、私としては、こんなにありがたいことはないと感じています。

という私の秘めたる思いを、少し紹介させていただきました。
それでは、田池留吉のご挨拶より、始めさせていただきます。

3. 田池留吉のご挨拶

皆さん、私は、田池留吉と申します。

私、田池留吉は、先ほどご紹介いただきましたように、一介の老人です。日本人男性の平均寿命を超えた今も、日々楽しく生活をしています。

しかし、私の本当の姿は、皆さんの目には見えません。

私の本当の姿は、意識、エネルギーだからです。これは、皆さんも同様です。

【私達人間の本当の姿は、意識、エネルギーです】

私は、この真実を、お伝えするために生まれてきましたと申し上げても、

決して過言ではありません。

従って、私の本当の姿を知るには、あなたの心で感じていただくしかないのです。そして、あなたの心で、私、田池留吉を感じていただければ、間違はなく、あなたは幸せを、安らぎを、感じていかれるでしょう。

それは、私、田池留吉の世界とは、一口に言えば、母の温もり、母の安らぎ、母の波動だからです。

どなたも、母親の胎内から生まれてきました。だから、どなたも、母の波動を知っているのです。

つまり、どなたも、私、田池留吉の世界を、その心で知っているということなのです。

あなたが、本当に、私、田池留吉の世界に心を合わせることができれば、それは、紛れもない事実だと、ご自分の心でお分かりになられると思います。

ということで、私の意識の世界を心で感じていただくために、私は、これ

までに約二十年間にわたり、全国各地において、セミナーを開催してまいりました。

たくさんの人達が集ってくれました。男性も女性も、たくさんの人達と出会わせていただきました。もちろん、海外からもやってきてくれました。

みんな、自分の間違いに気付いていくために、今世の時間をいただいたのです。

私達は、それぞれの場所で、それぞれの環境の中で、色々なところから自分の心を見ていくことを、学んでまいりました。

学びの詳しいことは、もうすでに、『意識の流れ』シリーズに書かれています。

どうぞ、それらを参考にいただき、あなたは、あなたの心を見ることをしてってください。

結論から言いますと、人間の心の中には、「他力の思い」が詰まっています。

「他力の思い」とは、一口に言えば、形を本物とする思いです。

形を本物とする思いとは、どのような思いでしょうか。

目に見え、耳に聞こえるこの空間に、今、あなたは自分を確認しています。ひとつの肉体を指して、自分だとしています。

言い換えれば、肉体という形からしか自分を確認できない今現在のあなたです。

このように、形を本物とする思いとは、形あるものを中心にして、物事を見て、判断していく思いです。

そうではなくて、人間の本質である意識の世界から、自分を確認する、本来私達は、そうあるべきなのです。

なぜならば、私達人間の本当の姿は、形がなく目に見えないからです。

自分達の本当の姿を見えなくしてしまったのが、自らが作ってきた「他力の世界」というわけです。

先ほど、田池留吉の世界は、母の温もり、母の安らぎ、母の波動と申しま

したが、その母の温もり、母の波動を心で感じるためには、あなたの中に詰まったままの、その「他力の思い」をしつかりと見つめていかなければなりません。

それをしないままでは、本当の喜びも、本当の幸せも、決して分かるはずがないことを知っていただきたいのです。

皆さんが、今、見ておられる現実の世界は、区別、差別の世界です。形の世界は、区別、差別の世界です。

理不尽な区別、差別を怒り、あるいは嘆いても、形の世界は、区別、差別の世界なのです。

今、私達人間は、区別、差別のある中で、何とか幸せになろうとしています。しかし、なれるはずはないのです。誰かが幸せを感じていけば、必ず、その裏で不幸せな人がいます。

形の世界には、光と影があります。光が当たれば、影ができるのです。

形を本物とする思いが、区別、差別の思いを膨らませていきます。さらには、区別、差別の思いが、形を本物とする思いを強くしていくのです。

その中で、どれだけ幸せになりたい、喜びを感じていきたいと思ってみても、それは、不可能なことです。

ということを、私は、約二十年前から、皆さんにお伝えしてまいりました。

本当のことを見失った世界とは、どれほどの苦しい世界なのでしょうか。

もう自分を傷つけていくことは、やめにしましょう。

私達は、初めから幸せな存在です。

嘆き苦しむそんな人生を、いつまでも繰り返していく、これほど愚かなこととはないでしょう。

心で感じ始めた人から、その方向を変えていけるような生き方をなさっていただく。

本当のことを知らない人間は、無知です、エゴです、欲いっぱいです。愚

かなのです。あなたは、自分が愚かであった、愚かであると、どの程度自覚されていますか。どうぞ、愚かなご自分を知っていただく。自分を知らずに生きてきた愚かな自分と、出会っていただく。

ところで、あなたご自身、これまで、「私達は生かされています」ということをおっしゃったことがありますか。あるいは、どこかで、そういうようなことを聞かれたことがありますか。

あなたは、それを、どのように思っておられますか、どんな意味でとらえていますか。

確かに、私も、そういうことを語ってきました。

「私達は生かされています、許されています、私達は、愛の中にあります」と。では、私達は、何によつて生かされているのか、許されているのか、そして、愛の中にある愛とは一体何か、そういうようなことを、愚かな自分と出会う中で、その本当の意味を知っていただきたいと思います。

4. 田池留吉の世界へ

当初、私は、今、私達の日常生活の中で問題となっている事柄について、田池留吉の世界から感じたことを、まとめてみようかと思いました。

例えば、臓器移植の問題とか、DV（家庭内暴力）、覚醒剤などが、その候補に上がりました。

それらの問題を、田池留吉の世界から語ってみて、そこから、田池留吉の世界を、まず頭で理解していただくのも一手かなあと考えたのです。

しかし、私の思うようには、キーが打てないのです。

私の本当の思いは、そういう問題について、あれこれ語るよりも、もっとストレートに田池留吉の世界を語りたい、そういうことなのかもしれません。

さて、では具体的に、田池留吉の世界をどのようにして語っていくのかと言え、その取っ掛かりは、やはり、私自身が、田池留吉とともに学んできた実際の道筋にあると思います。

まず、そこから語り始めてみようと思います。

私は、過去に、『ありがとう』という本の中で、田池留吉が開いてきたセミナーに集った経緯を記しています。

自身の身に起こった出来事により、私は、ようやく重い腰を上げて、学び始めたのです。

私は、セミナー会場で、田池留吉という人物と出会い、自分の心を見ることを通して、自分が出すエネルギーというものに、どんどん注目していきました。

と、こう何気なく語っていますが、私自身、自分の流すエネルギーを、少し知るまでには、ざっと五、六年の年月がかかりました。

私は、それほど自分の心を頑かたくなに閉ざしていたのです。

もっとも、「閉ざす」という表現は、適当ではないかもしれません。

私自身は、ごく普通の女性です。引きこもりとか、精神不安定とか、そういうことは一切なく、適当に生活を楽しんできた、どこにでもいる人間でした。

心を閉ざすというのは、心が鈍感という意味です。鈍感というのは、バカということではありません。ただ、目に見えない世界よりも、目に見える世界を信じる思いが、断然強かったということです。心で感じることも、頭で解釈する部類の人間でした。

田池留吉が伝えている意識の世界は、頭で知る世界ではないんだ、心でしか分からない世界なんだ。だから、心で感じたいと思いつつ、それは私にはなかなかでした。

その間、どれだけセミナーに参加してきたことか。

そして、なかなか自分の心で感じられないのは、あいつ（田池留吉）のせいだ、

もっと、具体的に私に分かるように話せと思いながら、参加してきたことも否定はしません。

今思うと、本当にお粗末な自分でした。

学びをしている私の周りにいる人達は、母にしても叔母にしても、彼女達の友達にしても、みんな、ある程度敏感で、あの当時、何か私だけがひとり、その世界に入っていないような疎外感がありました。

こんなことではいけないと、私にはある種の焦りがありました。今だから白状しますが、多分に不純な動機で、私は、セミナーに参加していた時期があったと思います。しかし、欲目かもしれないませんが、それもまた、私の中からの促しが、やはり、強かったからだと言えるのではないかと、私は思っています。

ついでに、もうひとつ。

当時、私が居住する関西周辺の近場や、関東で言えば、浜松、熱海などでは、セミナーに参加する人達の数が多かったのです。

何かそれでは同じ一回のセミナーでも、ゆったりと充分に学ぶことかできないように思い、せっかく時間とお金を費やしても損のような感じがしていたというのが本音でした。

だから、北海道にも行きました。鹿児島、沖縄にも行きました。アメリカにも行きました。

どうしてそんな遠方のセミナーにも参加したのかと言えば、それは、その当時、地方のセミナーとか、アメリカでは、参加人数が比較的少なかったからというのが、私の中では大きな理由でした。

もつと他に、深い意味があったのかもしれませんが、とにかく、私は、遠方のセミナーにこそ、進んで参加してきました。遠方だから旅費がかかる、身体が疲れる、そういうことには全く頓着せず、ただ参加人数が少なく、ゆったりとした感じで学びたいと思っていたのです。

もちろん、その効果は案の定、大きかったです。

宿泊を伴うセミナーにせっせと参加して一年後の初夏。

アメリカのセミナーで、私は、田池留吉より前に出てくるように言われました。

その当時のセミナーは、チャネラーとおぼしき人達が、主として希望する人達の意識を受けて一方的に語るという、いわゆるチャネリングが中心でした。

私は、その時、自分では希望しなかったけれど、そのようにチャネリングを受けるチャンスに恵まれました。

一通り、私の意識を受けていただいて、語っていただいた後、私は、田池留吉のほうに心を向けさせていただきました。

その時です。私の心に感じ響いてきたあの思いは、とても懐かしいものでした。私は、この思いを知っている、知っている、懐かしいなあと、自分の中で叫んでいました。

今思えば、セミナーに足繁く通ったのは、あの時感じた懐かしい思いが忘れられなくてということも大きな一因だと思います。

心は知っていた、今の私の記憶にはないけれど、私の心は知っていた、知っている、この懐かしい思いを私は知っている、そう心で感じたことが、それからの私を、より一層セミナーに駆り立てたということでしょう。

それにしても、毎月二回のセミナー参加は、今思えば、懐かしいという思いもありますが、よくやってきたなあ、これたなあという思いのほうが、やはり、強いです。

東海道、山陽、上越の各新幹線に乗り、ある時はJRの特急に乗り、ある時は飛行機に乗り、それから空港、あるいは駅からバスに長時間揺られ、セミナー会場にようやく辿り着くという、何とも忙しいスケジュールを、これまでになしてきました。

また、二十数年に及ぶセミナー会場の風景も変わりました。テーブルとイスが用意されていたときから、テーブルがなくなつてイスだけになって、さらには、そのイスもなくなつて、みんな会場の床に直に腰を下ろすようになりました。それは、セミナー会場に収容できる人数を増やすためでもありま

したし、セミナーの形式が、机の上だけの勉強ではなくて、それぞれの肉体を通して学んでいくというふうに実践的になりましたので、テーブルやらイスなどは不要になったのでした。

学び始めて五、六年、石の地蔵さんのように全く動かなかった私の身体も、その頃から、ボツボツと動き出すというか、暴れ出すというか、そのような状態になっていました。

何せ、私は本当に鈍感だったので、最初は感動でした。やったー、出たあー、本当にそんな感じでした。

私が本格的に自分の凄まじいエネルギーを感じ出したのは、宇宙に向ける瞑想でした。

当時、みんな両手を上に挙げてクルクルと自分の身体を回転させながら、宇宙に向けてきた自分のエネルギーを感じていくというセミナーの現象の時間の中で、私の中からも、出てくる、出てくる、すごい勢いで身体が回転していく中で、自分の中に溜め込んできたエネルギーが飛び出し、噴き出して

きたのです。

自分の出しているエネルギーを、自分の身体を通して表現し、学んでいくという形式となっていた頃は、もうそれこそ、毎回、毎回のセミナーの時間は、みんな汗と涙でグシヨグシヨになって、その着替えに忙しかったことも思い起こされます。

みんなが、我も、我もと様々な思いを持って、田池留吉を目指し、田池留吉を真ん中にして動いていく一塊が、当時、セミナー会場で、何度も、何度も出来上がりました。

その押し合いへし合いの中で、誰か一人でも足などを引つ掛けて躓いてしまえば、ドドツと将棋倒しではないけれど、人の上に人が折り重なって、大変な事態になる危険性も少なからずありました。

しかし、誰もみんなそんなことを思う間もなく、ただ、あの当時は、それぞれが必死だったと思います。

みんな、必死になって、自分の流してきた、培^{つちか}ってきたエネルギーを、そ

の肉体を通して感じていったはずです。

だからこそ、次のセミナーが待ち遠しい、それは、みんなの共通する思いだったでしょう。

そのような、ただただありがたい時間を持たせていただいたのです。

いいえ、ただありがたい時間だけではありませんでした。

私は、意識の世界の不思議さと素晴らしさを、この身を介して体験させていただいたのです。

なぜ、何の変哲もないあの人、田池留吉の姿をセミナー会場で見ると、自分の心の中からムクムクと湧いて出てくるものがあるのだろうか。

ムクムク、いいえ、そんな生易しいものではありませんでした。

私のこの肉体を突き破ってくるほどの勢いのエネルギーを、田池留吉を見るたびに感じてきました。

田池留吉がそこにいることが、それだけがもうたまらなく悔しかったのです。

何も言わずに、ただ突っ立っている姿に、どれほど、私の心がかきむしられたことか。相手は一人の老人です。なぜなのか。

これは理屈ではありませんでした。

腹の底から突き上がってくる悲鳴に近い叫び声とともに、その凄まじいエネルギーは、田池留吉目掛けて、一瞬のうちに飛び出していくのが、手に取るように感じられました。

まさに、「くそつ、田池」の連続でした。

私には、それが不思議で、不思議で仕方がなかったのです。

そうかと思えば、無性に涙が出てくるのです。何で、田池留吉の姿を見れば、「くそつ、田池」の思いが突き上がり飛び出してくるのか、また、涙が溢れ出てくるのか、私には説明がつかないことばかりでした。

説明がつかないことばかりだけれど、私は、それを人に聞きたいとか、教えてほしいとか、そういう思いは全く出てきませんでした。

また、破壊の凄まじいエネルギーを出しても、それが恥ずかしいとか、ど

うしようとか、どこまでこんなエネルギーが飛び出ていくのだろうかとか、そういう思いもほとんどなかったのです。

それは、今思えば、説明がつかないと言いながら、私は、もうすでに分かっていたからなのでしょう。

凄まじいエネルギーを出せば出すほど、私の心に響いてくるものは、何とも心地良かったのです。

懺悔の思いが、何とも言えない優しさ、温もりとともに、心の奥底から突き上がってくるのでした。心に溢れてくるのでした。

止め処もなく溢れる涙は、悔し涙などではありませんでした。

涙は、本当に嬉しいときに、本当に喜んでいるときに溢れるように流れ出てくるのだと、しみじみ感じていました。

そのような体験が、私には、数え切れないほどあるのです。

何度も何度も、田池留吉に立ち向かっていくエネルギーを感じてきました。

そして、殺してやりたいほどの思いは、ついに、現実には田池留吉の首を、絞めにかかったのです。

その時の様子が、私には、つい昨日の出来事のようにです。

そのことを思い出すたびに、よくそんな大それたことをしてかしたなあと思います。

何と言っても、セミナー会場では、田池留吉という人物は中心人物です。ましてや、他力信仰を重ねてきた人達にとっては、やはり、雲の上の存在でしょう。その偶像崇拜的な思いは全く間違っているけれど、よもや、そういう人の首を実際に公衆の面前で絞めにかかるなんてことは、常識的には考えられないでしょう。

しかし、私の中の意識は一斉に田池を殺せと叫んでいたのだから、あの場面では、その思いがストレートに行動に示されたのです。

意識は正直だと思いました。そして、また、そういうチャンスが自分に用意されていたことが、たまらなく嬉しかったということです。

田池留吉のもとで学んできた人達は数多くいるけれど、田池留吉の首に、両の手を回し、実際に首を絞めようとしたのは、後にも先にも、私一人でしょう。

私は、そんな幸せなチャンスに恵まれてきました。

それにしても、田池留吉という人物と私は、セミナー会場で顔を合わす以外には、何の関わりもない人です。そう、肉的には、何の繋がりもありません。なのに、何で、こんなに自分の思いが飛び出てくるのか、不思議でもあり、しかし、納得できるような、本当に妙な感じでした。

最初は分かりませんでしたが、田池留吉という肉を通して流れている世界、その世界に私は反応しているのだ、そういうことが、段々と頭ではなくて心で分かってきました。

腸が煮えくり返るほど悔しくて、悔しくて、この悔しさをどうしていいかわからずに、ただ田池留吉に向って罵声ばせいを浴びせてきました。その時の私の

目は、本当にすごかったと思います。

姿を見るだけで、ほとんど悲鳴に近い叫び声が腹の底から上がってくる、こんなこと、到底私の頭では理解できないことでした。どうにも説明できないけれど、実際にそうなってしまうのでした。

もうそれは、私はエネルギーだと実感、そして、納得する以外、どうにも説明が付きません。それは理屈ではないんです。

身体の中から湧き起こってくるエネルギーが、瞬時に私の肉体を通して出てくる体験を、繰り返し、繰り返し重ねてきました。

そうなった状態のときに、石の地蔵さんのように動かなかったときを振り返れば、私は、エネルギーが肉体を突き破って出ていくのを抑えよう、抑えようと必死だったんだと分かりました。

飛び出してくるエネルギーの何倍も何十倍も、それを抑え付けようとするエネルギーが強かったんだと感じました。

「ああ、これだったんだ、これが苦しかったんだ」と、ひとつ、自分の中

でストーンと軽くなりました。

そうすれば、次の疑問が出てくるのです。

「何で飛び出してくるエネルギーを抑え込もうとするのか。」

冷たい自分を感じました。

「田池留吉を見たとき、なぜ、その締め付けが緩んでいくのか。」

「私は、本当は田池留吉の世界を知っているのではないだろうか。」

色々と納得したり、新たに疑問が出てきたり、その他、私は、セミナーのたびに、自分に色々な課題を提供してきました。

特に鈍感だった頃は、何とか早く敏感になろうと、試行錯誤的に学習してきました。もちろん、その都度、セミナーで課題となったものは、すべてそれなりに消化していきました。その他、例えば、セミナーの時間のテープをその場で録音し、その録音したものをその日の晩、寝るときに聞き直し、翌日のセミナーに備えるとか、セミナーから帰宅後、次のセミナーまでに繰り返し聞き直すとか、そういった努力は惜しみませんでした。

本当にテープはあの当時よく聞きました。まず耳から音を入れて頭を通過させてという作業をしてきました。

もちろん、それと平行して、母親に使ってきた心、思いをノートに書きながらぐつてきたことは言うまでもありません。

そういう積み重ねがあったからということ、もちろんそうですが、しかし、実は私の本当の母親の反省は、やはり、セミナー会場の現象の時間でした。

私は、幸いにも、私を生んでくれた母とともに学んでいます。このことが、私には、本当に幸せなことでした。

私が過去から培^{つちか}ってきた他力の世界、母の温もりに徹底的に逆らってきた、歯向^{すさ}かっってきた凄まじい殺戮^{ころりく}のエネルギーを、セミナー会場で、つぶさに感じられたからです。

母の肉がセミナー会場にあった、これは、私には非常に好都合でした。そのひとつの肉を入り口にして、母の意識（温もり）に徹底抗戦する私の中の凄まじいエネルギーを感じ、知ることができたからです。このことこそが、

私の母の反省に他なりませんでした。

徹底的に排除し、殺しに殺しまくってきた母に対する思いを、心の底から感じさせていただきました。それも何度も、何度も、セミナー会場で学習させていただきました。それは、もちろん、今世の母との因縁、そんなちっぽけな世界のことではありませんでした。

母の意識（温もり）に対して、私が出してきた思いは、すごかったです。本当に地獄の奥底の呻き（うめ）でした。

私は、田池留吉の肉、そして、母の肉、この二つの肉により、自分の中を大いに出すことができたのです。

まさに、地獄の蓋が開き、自分の中の凄まじいエネルギーが、次から次へと飛び出してくるといった感じでした。

そういう意味において、肉の果たす役割はとても大きいと思っています。

また、そのエネルギーは、ただ狂った凄まじいエネルギーに留まっているものではありませんでした。

次から次へと飛び出てきたエネルギーが伝えてくるものは、罵詈雑言ばりぞうごんとは全く裏腹な思いでした。

嬉しくて、嬉しくて、そして、ただただ申し訳なくという思いが、心に広がってくるのでした。

本当に無条件に受け入れてもらっていることを感じさせていただきました。その思いに触れた私は、ただただ懺悔でした。

無条件に受け入れてもらっている、これほどの温もりはありませんでした。これほどの幸せ、喜びはありませんでした。

セミナー会場で、狂ってきた意識をこの肉体を通して、思う存分出させていだだいた頃を懐かしく振り返っています。

あの時間と空間、本当にありがとうございました。

たくさんの方の意識達が心から喜んでます。ひとつの肉体を通して、徹底的に思いを出させていただきました。

過去に培^{つちか}つてきたエネルギー、ブラックのエネルギーをこの肉体を通して、
どれだけ出させていたかのことか。

すべては自分の計画でしたが、本当に千載一遇のチャンスを得ました。それに耐えうるだけの体力、気力がありません。

私は、セミナーの現象の時間の中で、たくさんのチャンスを得てきました。肉体を通して感じる意識の世界はすごかったです。凄^{すさま}じいエネルギーのもとに、今世、ひとつの肉をいただいた喜びと幸せが心に湧き起こってきた瞬間を、何度もセミナー会場で体験してきました。

懺悔はもちろんのこと、すべてがここから始まるのだ、私は、そう感じずにはいられませんでした。そんなチャンスをお願いしてきた私です。今、その当時に瞑想する中で懐かしく愛しく振り返っています。

意識の世界は、頭では絶対に理解できない世界です。今のこの肉という形を通して自分に伝え感じさせてくれた、このことの他に喜びなんてあるはずがありません。

宝の山をどっさりと私は手に入れました。みんなみんな自分の喜びに繋がっていききました。セミナー会場はそういう場でした。

凄まじいエネルギーを感じさせてくれて、そして、そのエネルギーを大きくただただ包み入れてくれている母の懷を、しっかりと心に蘇らせてくれた場でした。

私は、田池留吉の肉とともに、この肉がそのような場を共有できたことが、本当にこれからの自分にとって、どんなに大きな、そして、大切な出来事であったのか、当時はもちろんのこと、今も、そして、これからも、私の中に大きく喜びとして、確実な喜びとして広がっていくでしょう。田池留吉という真実の意識が肉を持ち、セミナーという学びの場を設けていただいたことに、感謝しかありません。

過去、自分を狂わせてきた凄まじいエネルギーであるにもかかわらず、私は、これまで自分を見失わずに過ごすことができました。

精神的に不安定になることもなく、自分の計画してきた道筋を進んでくることができました。

これは、みんないいタイミングで学びに集え、そこで集中的に学べる環境があつたからです。

私はそういう面においても、非常に恵まれています。すべてが意識の流れの中の出来事だからでしょう。

「目覚めるべくして目覚めた意識、目覚めなければならなかった意識、田池留吉という真実の意識が肉を持ってきた意識の流れから起こってきた必然、そのように素直に淡々と受け取っています。」

このようにして、私は、毎回のセミナーを活用してきました。

前のセミナーではこうだったけれど、今回はこういうふうになっていたというような検証を自分なりにしながら、セミナーの回数を重ねていったのでした。

もちろん、そこには、田池留吉のお手伝いが大いにありました。

セミナーの時間と空間の中で、あらゆる角度から、様々なチャンスを得てきました。私は、セミナーに行くのが、楽しくて楽しくて、セミナー中心に、自分の生活が回っていったのでした。

だから、私からすれば、せっかく今世、こんな素晴らしいセミナーに参加できた人が、なぜ、そのセミナーから足を遠ざけていくのか、全く理解できませんでした。

そこには、人それぞれ様々な事情があるかもしれませんが、何も毎回のセミナーに参加しなさいとか、そういうことではなかったのです。たとえば、事情があつたにせよ、何かを工夫すれば、何とか何回かに一回は参加できるということではなかったのでしょうか。

とにかく、セミナーの開催期間中に、相当のブランクがあるというのは、いかなるものなのかと私は思います。私には全く考えられないことですが、仮にそうであれば、その点について猛反省するべきだと思います。そのとこ

ろを有耶無耶^{うやむや}にしてはダメだという思いを持っています。

要するに、田池留吉と言えばセミナーなのです。セミナーを抜きにして、田池留吉を語ることなどできないのです。

というところから、私は自分のセミナーでの体験等を、長々と記してきたわけです。

セミナー会場における田池留吉は、確かに意識の世界はちゃんとここにあるんだよということを、その肉体を通して私達に伝えてくれたのでした。

私を含め、田池留吉とともに長い間学んでこられた人達は、これまでのセミナーがいかに大切であり、幸せな時間と空間だったかは、すでにそれぞれの心で感じておられるでしょう。現実問題として、もうあの当時のセミナーの再現はできないことも承知しておられると思います。自分の出しているエネルギーを自分の肉体を通して存分に知っていくということは、あの当時だからこそできた学びでした。

それは確かにそうです。

では、当時のセミナーの時間と空間を共有できなかった人達はどうなのでしょうか。最近、この学びに集ってこられた人達もいるでしょうし、これから学んでいこうとする人達もいると思います。『意識の流れ』シリーズの愛読者もおられると思います。

そういう人達にとっては、事実上、セミナーは終了し、それを引き継ぐ形としてのUTTA会という学びの場が年に数回設けられているという現段階を考えれば、私を含め、多くの人達が学んできたようには行かないかもしれません。

しかし、心配には及びません。今は、真実に触れていく、真実を知っているための学びの土壌というか、学びの基盤は磐石ばんじやくです。

もし、学びの年月の浅い人達の中で、本当に学んでいこうとする人がいるならば、その思いに、私達はきちんと応えていくことができます。本書も、その思いを込めて、私は綴っています。

ただし、それは、そういう人達が、曲がりなりにも心を見る実践をしているということが、前提条件として必要です。

そうであるならば、自ずと、先にご紹介しました『意識の流れ』『続意識の流れ』は、とりあえず読んでいただいているということになるでしょう。

田池留吉は、占いとか悩み相談の窓口ではありません。

第一に、自分の人生とか、自分の今についてこれでいいのかとか、何かいつもそういうことを考えている人でなければ、本書に出会うこともないでしょうし、仮に、半ば強制的に手渡されたとか、読むように勧められたとしても、なかなかここに書かれてある内容は理解できないと思います。

そもそも、心を見るところを知らない人、あるいは、その実践がない人は、本書の内容を頭で理解しようとしません。

その人、田池留吉とくれば、田池留吉のプロフィールを知ろうとするし、その得た情報から色々思いを巡らしたりします。そして、そういうところか

ら、田池留吉の世界を知っていかうとするのです。例えば、本書が、田池留吉にまつわるエピソードのいくつかを、何か摩訶不思議まかふしぎてき的な表現で綴られているとするならば、心を見るところを知らない人にとっても、まだその実践がない人にとっても、取っ付きやすい本に仕上がるかもしれません。

しかし、それでは、田池留吉という人は何か不思議な人だ、という思いは抱くものの、そこ止まりです。非常に狭い部分で踏み止まってしまいます。ということとは、田池留吉を、やはり、どこかの古い師か、悩み相談の窓口程度にとらえてしまうのです。そして、完全に田池留吉は偶像崇拜の対象物となってしまう。それは私の意図するところと全く違いますから、そういう本は出来上がってきません。

実際、私も『意識の流れ』シリーズの本は難しいといった感想を何度か耳にしたことがあります。それは致し方のないことです。頭で理解しようとするから難しいということを、頭で理解しようとする人達に向かって言っても、どうなるものでもありません。

田池留吉が伝えていることは、私達の頭などで分かるはずはないのです。それにもかかわらず、自分達の頭で理解しようとするから、何かいい加減なことを言っているのではないかとか、唯我独尊ゆいがどくそんてき的な世界だとか言つて、敬遠してしまうのです。

しかし、真剣に自分の生き方、存在の仕方と向き合い、そこから本当に自分を知つていこうとしている人であるならば、田池留吉の世界は、その思いに存分に応えてくれると私は保証します。要は、洗脳されるとか、妄信ではないかと言う前に、自分の心を見てくださいということなのです。

心を見ていけば分かります。何らかのルートで心を見るところを知つた人達が、本当に自分の使つてきた思いを振り返つていけば、必ず、自分の人生観が変わつていくことは確かだと言つておきます。

一人でも多くの人が、自分の心を見つめることを知つてほしい。その実践をしてほしい。そして、今、肉体を持ってそこに存在している訳を心で感じていつてほしい。私は、ただそう思うだけです。

以上のように、セミナーの参加回数が多くても少なくても、結局は、すべては本人次第なのです。いかに真摯^{しんし}に真剣に自分と取り組んでいくかだけです。

極端に言えば、セミナーに集ってきた人であっても、真摯^{しんし}に真剣に自分と取り組むということがなければ、本当の自分と出会うことはありません。

反対に、セミナーに集つてこなくても、また、今世は本の上での学びであったとしても、次の転生^{てんしょう}、その次の転生^{てんしょう}を経て、真実の世界に目覚めていく人達も、もちろん、あると思います。

みんな真実と出会うチャンスは公平にあるからです。そのチャンスを生かすも殺すも、みんな自分次第だということを田池留吉の世界は伝えていきます。

そして、私自身の場合は、ある出来事をきっかけに、セミナーに参加し、そして、そこで学ばせていただきました。それが私の計画でした。その自分の予定した計画を、ただ忠実に遂行^{すいこう}していっただけのことでした。それが私の望みであり、願いだっただけです。だから、私は、今世において、真実と出

会うチャンスを活かすことができましたということです。そして、あなたはもうでしうかということなんです。もつとも、これからの転生てんしやうの時間は険しく厳しい時間となります。それは、すべての意識達が、真実の世界に触れていくという計画の中にあるからだとし添えておきます。

田池留吉は、母親の存在の大きさ、すごさを伝えてくれました。まず、自分を生んでくれた母親に対して、どんな思いをぶつけてきたか、小さかった頃から今現在まで、母親に対して、一体どんな態度を示し、どんな言葉を吐いてきたかということと併あわせて、母親に向けて出てきた思いを振り返っていく。つまり、母親の反省をするということが、とても大切なことだと伝えてくれました。そこからまず始めてくださいということでした。

母親を毛嫌あがいするか、見下すか、崇め奉あがっているか、無視するか、奴隷のように思っているか等々、どの人も母に対してはストレートに思いを出しています。ストレートに思いを出せる存在なんです。それが母親という存在で

す。

そして、ストレートに出てくる自分の思いを見つめていくために、母親は愚かしいことをしたり言ったりしてくれます。くれぐれもその母親という人間をつかまなくてください。人間というものは、みんな愚かなのです。それを念頭に置きながら、ただ、自分の心に湧き起こってくる思いを見つめていく、そこから始めていけば、自分の愚かさが少しずつ分かってくるのではないでしょうか。自分の愚かさに気付いていく、それが心を見えるということです。

そういうことを、日々の生活の中で淡々と繰り返していった人が、再度、本書を読み返してください。あ、なるほどとなってくると思います。心を見る実践がなく、ただ知識、常識を前面に出して、真実の世界を知ろうとしても、それは徒勞^{とろう}に終わってしまいます。そして、それだけならまだしも、疑心暗鬼^{ぎしんあんき}の思いがどんどん膨らんで、結局は、他力の中から抜け出すことができません。

田池留吉が伝えてくれている世界を心で知っていくためには、実践あるのみです。実践していけば、セミナーに行ってみたいなあ、田池留吉という人、高齢だというのが、一度会ってみたいなあ、そんな思いになってくるはずですよ。そういう思いになった人が、セミナー会場にやってくれば、決して失望などしません。

反対に、一応は本を読んでセミナー会場に来たものの、自分の心を見ると、実践のない人は、やはり、自分の頭で理解しようとするから、矛盾だらけのチンプンカンプンということ、早々と会場を後にしていくでしょう。セミナー会場にやってきた動機が全く違っているのだから、それは不思議でも何でもない、予定の行動です。

前にも記しましたように、人間の心の中には、他力のエネルギーがぎっしりと詰まっているのです。心を見えるという実践のない人は、もちろん、そういうことが分らず、従って、真実の世界に足を踏み入れることを妨げているのは自分だということなど、全く分らずじまいのまま、人生を終えてい

くのです。

本書を手にとったあなたには、ぜひ、そんな中のひとりから抜け出してほしいと私は思っています。

こういう私もまた、形ある世界が現実の世界だと信じて疑うことなど全くなかったのです。私は、重い腰を上げて、ようやくこの学びに集いました。肉の力を信じてきた私でした。そんな私が、自らの現象を通して、ようやく、自分の中を見つめていこうと重い腰を上げました。そして、この学びに集えたチャンスに、私は、これまで充分に活かしてきたと思います。

田池留吉の世界を学ぶ私は、自分の中に、自分を突き動かすエネルギーを感じてきました。

間違ってきた真つ黒な私を突き動かすエネルギーは、自分を変えていこう、自分の意識の世界を正しい方向に向けていこうと必死でした。

そのエネルギーが、この肉を動かしてきました。

そのエネルギーを、私は、今、とても愛しく感じます。自分自身を愛しく

感じます。

田池留吉の世界に心を合わせ、心に向けていけばいくほど、私は私を愛しく感じます。

田池留吉の世界から流れてくるものが、私の中に染み渡っていきます。

温かい、温かい温もり、優しい思い、お母さんの優しい、優しい思い、その思いが、私の中を解きほぐしていくんです。

ありがとうございます、ありがとうございます、私の中が伝えてきます。このありがとうございますの思いは、何かをいただいたから、また何かをしてもらったから、お世話になったからありがとうございますではないのです。ただ、私の中から、ありがとうございます、ありがとうございますと伝わってくる喜び、幸せです。

この喜びと幸せを、一人でも多くの人が感じられたなラと思っています。

あなたの中の本当のあなたは優しいんです。あなたは温もりそのものなんです。だから、その真実の世界を本当に心に広げていこうと必死になつて、その肉を持ってきた自分自身の思い、その思いと、少しでも出会っていつて

ください。

ただ、そこに今あなたがあること、それをしっかりと心で感じていってください。感じていけば、どれだけ幸せの中にあるか、自ずと分かってきます。

私は、今、とても幸せです。本当に幸せです。お母さんと心から呼べるからです。お母さんを心から呼べる私は、自分を感じることができます。間違いない続けてきた自分を感じることができます。こんな嬉しいことはありません。こんな幸せな時はありません。

もちろん、私だけではありません。

「今世、生まれてきた私達は幸せです。今世、生まれてきて学びに集えた私達は幸せです。」

学びに集う多くの人達は、おそろく、今頃は、この思いを確実に心に広げているでしょう。ともに学ばせていただいた人達を思うと、次のようなメッセージが浮かんできます。

今世、なぜ、田池留吉がセミナーを開催してきたか。

今世、学ぶべき人が学ばなければならなかったからです。

今世、なぜ、あなたはセミナーに集ってきたのか。

今世、あなたは学ばなければならなかったからです。

どうぞ、今一步、あなたの歩みを進めていってくださいということなので
しよう。

どうぞ、瞑想をする時間を持ってください。瞑想です。自分を感じていく
時間を大切にしていってください。

ところで、セミナー参加が楽しくて、生活の中心にセミナーがありました
が、私は、日常の生活をみんな放棄して、あるいはいい加減にして、セミナー
に参加してきたではありません。

セミナーの日程以外の日は、きちんと職場に行き、毎日の生活も、ほぼ規
則正しいものでした。

セミナーに参加しようと思えば、肉的な条件が必要です。

宿泊代金と交通費、周りの人達の理解と協力、そして、自らの健康、それらの条件を自分なりに整えて、それから、初めて学べるのです。

中には、借金をしたり、周りの人達の反対を押し切って参加したり、あるいは、セミナー参加を隠したりという人もあったかもしれませんが、そういう人達は、やはり、それなりの結果が、今、出ていると思います。暗い思いで参加してきた結果が出てきます。

無理に無理を重ねて、セミナーに参加をしてきたにしても、それは勉強熱心であり、真実を追究する思いが強いと褒められるべきものではありません。無理は、どこかで必ず、表面化していきます。

なぜならば、無理をして学ぶという心は、欲だからです。

欲一杯では、学んでいるようで実は本当の学びに繋が^{つな}がってこない、私は、そう思っています。

例えば、セミナーに参加するための条件のひとつに、宿泊代金と交通費と

いう経済的な問題があります。

いわゆる成人年齢に達し、一社会人、一家庭人であるならば、私は、やはりそのお金は、自分で工面すべきだと思います。

工面できる範囲で、セミナーに参加することが当たり前なんです。

借金はとんでもないですけど、そうではなくて、親心というのでしょうか、そういう善意もまた、裏目に出る場合が多々あると思います。

なぜならば、セミナーに参加するためのお金を出してもらってきた人達は、どこかに甘えがあり、その甘えにより、自分の心をしっかりと見る、見なければという状態にまで、自分を追い込んでいけないのです。

お金の出所云々を私は言っているのではなくて、甘えが、自分と真向かいになろうとする思いを阻止してしまうことが、その人達には分らないと言っているのです。だから、お金を出してもらって学ばせていただくことに對しても、本当に心から感謝などできないはずです。そんな心では、どんなに何を感じようとも、決して学びの本筋に触れることはない、私は思っ

います。

田池留吉の世界を知っていくというのは、そんな生易しいものではないと感じているからです。

この学びを本当にやっていこうと思ったら、そういう肉的条件など、整ってくるのです。

それが、いつまでもそうでないならば、やはり、その人達の向いている方向は、田池留吉の世界ではないということです。

本当に、田池留吉の言うことを信じて、田池留吉の示す方向に向いていくとするならば、まず、肉の生活は正されます。

それはなぜか。

学びをするのに、肉が必要、それも元気な肉が必要、そういうことが分かってくるからです。

田池留吉という人物は、至って普通です。

従って、この学びは、本当に普通の学びなんです。

例えば、最初から、精神的に不安定な人であっても、本当に自分を変えていこう、生まれ変わりたいと心の底から思えたならば、少し時間はかかって、その精神状態は、必ず、安定してきます。

薬などに頼らずに、朝起きて、夜寝てというごく普通の生活パターンが当たり前となってくるはずです。

また、そういう人達は、その状態になって、初めて自分を見ていくことができるのです。

学び始める前から、見えて聞こえるということは、非常に危険な状態です。見えて聞こえて、心に色々なものを感じ、心が敏感だから、学びの本筋に向かっていくかと言えば、決してそうではありません。

私が最初、鈍感だったからということでもないですが、むしろ、鈍感な人のほうが、やりやすいし、分かったら早いです。

もちろん、敏感、鈍感、人それぞれあります。どちらにしても、もともと元気な身体というか、普通の身体を持って、この学びができるということは、

もうそれだけでも、非常に恵まれているのです。私は、そう思います。取り立てて、何も要らないのです。

田池留吉が、今まで伝えてくれたことを、素直に、淡々とやっていけば、誰でもが分かる世界、それが田池留吉の世界です。

ということ、これまで二十年余り、田池留吉は、セミナーを開いてくれました。

田池留吉の世界は、何も特別な世界ではありません。

誰でもが分かる世界というのは、本当は、みんなが知っている世界という意味です。

知っているのに知らずにきたのが、私達人間だと思ってください。私達人間は、田池留吉の世界を捨てて、喜びと幸せを求めてきた愚か者です。

だから、今もなお、どこかの神様や仏様に手を合わせ、祈りを捧げ、あるいは摩訶不思議なパワーに心を向けているのです。

平和と繁栄を願う心がどんな心なのか、これから、私達はしっかりと体験していくでしょう。

その中で、田池留吉の世界を知っていくことだけが、私達の本当の喜びと幸せに繋が^{つな}っていくことだと証明されていきます。

私は、田池留吉とともに学んでまいりました。これからも、学んでまいります。

田池留吉を知っていくということは、自分を知っていくことだと承知しています。

「田池留吉という、至って普通の肉を通して流れる波動の世界を感じていく幸せと喜びを、一人でも多くの人に伝えることができたなら」というのが、私の思いです。

誰もが知っている世界なのに、自分の心の奥深くに閉じ込めてしまっていることに、気付いてほしいのです。まず、気付いてほしいのです。

私は、今世、田池留吉との出会いがあり、その気付きがありました。そして、私は、さらに、田池留吉の世界の奥深くを知っていきます。

田池留吉の世界は、無限大です。

どこまでも広くて、どこまでも大きくて、そして、そこには、温かい温もりがしっかりとあるのです。

その広さ、その大きさ、その温もりは、田池留吉の世界を、どんどん知っていくことで変わってきます。それは、取りも直さず、自分自身です。だから、田池留吉を思うことは、喜びなんです。

誰しも、幸せになりたいと思っているし、喜びを感じていきたいと思っています。それはそうでしょう、不幸せでいいなんて思う人は、まず、いないでしょう。

ただし、問題は、その幸せと喜びの中身です。

田池留吉の世界を、自分の心で知っていけばいくほど、必ず、本当の幸せ

と喜びに辿り着くことができるのです。

しかし、幸せになりたい、喜びを見つけない、田池留吉の世界を知りたいという、～したいばかりでは、ダメなんです。

ダメといっても、学び始めて最初はみんな欲です。欲の思いが強いでしょう。自分が欲の心そのままで、学びをやってきたと気付くまでに、相当の年数がかかります。この気付くということが、とても大切です。気付きがなければ、どんなに形は熱心でも、心は他力信仰です。

田池留吉が伝えてくれた内容は、とてもシンプルです。難解な言葉など、何一つ使いません。

ただ、あなたは、あなたの心を見ていきなさいとだけ、伝えてくれました。

「心を見るとはどういうことですか。」

「あなたは一体何者ですか。」

「あなたは何のために生まれてきましたか。」

「あなたの喜びと幸せは、どこにありますか。」

「死ねば、あなたはどのようなのでしょうか。」

こういった問いかけの中に、どこか難しい言葉がありますか。

しかし、誰一人として、満足な答が心で出せないままだったのです。もっとも優等生の回答なら、少し学べば誰にでも出せます。しかし、出した回答に自分の心がついていないということでした。

何年も学んでいけば知識はあります。しかし、知識ではどうにもなりません。一言で言うならば、波動です。田池留吉の世界は波動の世界です。

伝わってくる波動をどのように受けて、どのように心に広げていけるか、そういうところが難しいだけで、それが分かってくると、田池留吉の世界は無量大だと感じるし、思うことが喜びだと分かってきます。そういう世界がこの世にあったと知ったことが嬉しい、ただ、そうなってきます。

意識の世界には限りがない、田池留吉の世界には限りがない、そういうことが実感できることが、ただただ喜びです。

完結でないから幸せ、喜ぶのです。

どこまでも広がり、どこまでも続いていく世界に、ともにある喜びだけが
広がっていく、それがただただ幸せであり、喜びということになるでしょう。

5. 田池留吉の世界を感じていこう

田池留吉が真実を伝えるために生まれてきたのならば、私は、田池留吉の伝える真実を、心で感じていくために生まれてきたことになります。

田池留吉が、本格的にそのことに着手するために、全国各地でセミナーを開催して、すでに二十年を越える年月が過ぎ去っています。

私は、それよりやや遅れてセミナーに参加しました。そして、学ぶこと十七年、形の世界を本物とする意識を変える難しさを実感しながら、それでも、私は、自分との約束を違^{たが}えることなく、今日^{こんにち}に至っています。

皆さんは、これからの自分の人生の時間の中で、これをしたい、あれをしたい、こうしなければならぬ、ああしなければならぬ、できればこうなっ

てほしい、ああなつてほしいといったものがありますか。

私は、今の生活の中において、何もありません。

何かそれでは生きる目標を失つて、人生味気ないのではないかと、あなたは思いますか。

それならば、もう少し言葉を足してみます。

私は、実は、塩川香世という名前がついている私と、名前どころか、姿、形も何もない私と、その両方の私が現にここにいることを知っています。

ずっと以前は、名前がついている私だけのことを考えて、生活してきました。当然、その生活の中で、ああなりたい、こんなことがしたい、こうなつていこうとやってきたのです。

今は、姿、形がないけれど、しっかりと、そして、はっきりと語っている「私」があることを知りました。

しかも、その「私」が、紛れもない「私」なんだということも、私は知っています。だから、私は、その私自身を大切にしていこうとしています。

形がないけれど、確かに語っている私を中心に、今、私は、生活をしていきます。

そして、形の私は、もう充分に衣食住に満たされているのです。もう、これ以上、何かを得なければならぬという思いなどありません。

だから、塩川香世という名前がついている今の時間に、私がしていくことと言えば、ただひとつなのです。

それは、田池留吉の世界に心を向けることです。

もちろん、田池留吉の世界とは、言うまでもなく意識の世界です。

つまり、私の意識の世界を、田池留吉の意識の世界に向ける、合わせる、そのことをするために、塩川香世という名前がついている今の時間があるだけなのです。

姿、形のない私が今語っています。しばし、思いを聞いてください。



瞑想をする中で、私は喜びです。田池留吉を思うとき、ただただ嬉しい、喜びが広がっていきます。力強い喜びが広がっていきます。しっかりとした喜びが広がっていきます。

そこには何もありません。ただひとつになって、ともに歩いていける、喜びを共有していける、そんな時間をこれから経ていけることが、ただただ喜びです。

意識の流れを伝えるにきてくれた田池留吉の意識、その世界。

私の中に、その世界が広がっていきます。

田池留吉の肉は、真実を伝えるにきてくれた肉でした。心の中に喜びが広がっていきます。

ああ、出会いをありがとう。ただただありがとう。嬉しい、嬉しい、嬉しい、本当に嬉しい。喜び溢れる世界にようこそ。はい、田池留吉の世界に心を向

ければ、そんな思いがただただ広がっていきます。

何もありません。ただただ嬉しい、喜び、喜び、喜び、喜びの世界です。本当にありがとうございます。心の中に、苦しい、苦しい、間違ってきたたくさんの苦しい、苦しい意識達を感じます。ああ、しかし、喜びなんです。

それがすべて喜びなんです。これからの時間を感じています。

自分の中の苦しくて狂った、間違った意識を誘^{いざな}っていける、それが本当に喜びなんです。

田池留吉、その道をこのように自分の中で確立させていただきました。本当に喜びです。ありがとうございます。

今、本当にありがとうを、あなたに伝えたいです。

心の中の喜び溢れる思いを、あなたに伝えていきます。異語で伝えていきます。心を広げていきます。どんどん広げていきます。無限大に広がっていく田池留吉の世界、留まることはありません。どんどん広がっていきます。



時間の余裕のある人は、一時間瞑想がお勧めです。生活のリズムの中で、一時間程度の瞑想の時間が確保できれば、いいと思います。

この学びをするにあたり、生活のリズムを整えることは、私は、とても大切なポイントのひとつだと思っています。

きちんと手順を踏んでいけば、きちんとした成果が出ます。

きちんとした手順の中に、生活のリズムを整えることが、大きな割合を占めるのです。

なぜならば、今は肉を持って学ぶという段階だからです。そういう意味で肉はとても大切です。その肉を最大限に活かそうとしていけば、自ずと生活のリズムは整ってくるのです。

規則正しい生活、やはり、それが真実の意識の世界に直結していくことだと思います。

そして、あとひとつ、大きなポイントは、素直ということです。素直が一番です。

本当の喜びと幸せが分かってくれば、素直とはどういうことなのかも分かってきます。分かってくるから、さらに素直になっていきます。

素直に心に向けるから、さらに感じ伝わってくる世界があるという循環です。もちろん、その逆も大いにあり得ますけれども……。

学んでいけば、田池留吉は、決して難しいことを語っているのではないことが分かります。しかし、実践のない人には難しいでしょう。

まずは自分でやり始めることです。生活のリズムを整えて、素直になって、今という時間を大切にしていきましょう。そして、一時間瞑想を楽しんでいきましょう。

私は、本当に幸せだなあと実感しています。今、瞑想をすることができ、これは本当に幸せなことだと思っています。

ゆつたりとした静かな時間と空間を持てること、最高に贅沢ぜいたくだと思います。一日二十四時間のうち、たとえ一時間でも、自分を思う時間を自分に用意できるなんて、本当に幸せだと思います。

心に思い煩わづらうことが何もない。悩みが何もない。ただ、この道を真つすぐに歩んでいくことだけに思いを向けていける私は、本当に幸せ者です。

田池留吉の世界に出会うことが私の生まれてきた目的でした。その世界を自分の中に広げ、本当の喜びと幸せを知っていくために、生まれてきました。肉を持つ一人の自分だけを生きる目的に据すえ、その肉だけをとらえてきた哀しくも愚かな時間を気の遠くなるほど経てきました。

今、自分の中の優しさ、温もり、溢れる喜びを、肉を持つて感じられる現実現実に、ただただ、ありがとうの思いだけが出てきます。

泥沼の中で苦しみ喘あえいできた自分を、ようやく、温かい光溢れる世界に誘いざなう方法を知りました。こうすれば間違はなく本当の幸せと喜びが大きくなっていく、その手立てというか手順というか、そういうものを心は知りました。

心でした。すべてはこの心でした。心が幸せでなければという真の意味を、心で知りました。心、意識の世界、本当の私、すべては瞑想で明らかになっていくのです。

6. 田池留吉を思う喜び

何の変哲もない老人を思うことが、なぜ、そんなに喜びなのでしょう。

例えば、自分の愛しい恋人であるなら、分かるかもしれません。

前にもありましたように、私と田池留吉とは、血縁関係はおろか、肉的には、今世、何の繋がりもありません。

田池留吉がセミナーを開催してきた、そして、私は、そのセミナーにいそいそと参加してきた、繋がりと言えば、それだけです。

と、私は、思っていました。

しかし、どうもそれだけではなかったようです。

セミナーの中で、田池留吉が色々な話をしてくれて、その話を聞いていけば、今世の私は、田池留吉が縁ある場所に、私もまた、縁があつた、そうい

うことが分かってきました。

例えば、私が、生まれ育った場所には、田池留吉は、仕事の関係でよく立ち寄っていたこと、私が通っていた高等学校と、田池留吉が卒業した学校が、とある駅の西、東にあったこと、私がセミナーに集ってくる前に、ローンを組んでマンション購入を計画していた場所は、田池留吉の生まれ育った場所と目と鼻の先にある場所だったこと、などなのです。もっとも、その計画は計画倒れになってしまいました……。

そして、その計画倒れとなった原因により、私は、ようやくセミナー参加が実現でき、今現在に至っています。

計画通りに、あの当時、私の新しい生活があつた場所で始まっていたならば、私は、今頃、ローン地獄に苦しみ、今世もまた、肉、肉の生活だけの人生だったでしょう。

言うならば、私が右へ行くか、左へ行くかの時期に、田池留吉の縁ある場所が、私にも関わっていたのです。

そして、私が、今、居住している周辺は、はたまた、田池留吉がその仕事の関係で、よく立ち寄った場所でもあり、さらに、田池留吉がそこで教鞭きょうべんを取るように誘われた学校跡地に、今、私が居住している建物が建築されます。

そういうふう to 色々思っていくと、私達は、決して何の縁もゆかりもないとは言い難いです。

不思議な縁とも思わないけれど、そこには、何か、意識の世界の計らいを感じています。

私の肉では全く分からずとも、まさに、私の意識の世界は、今世、田池留吉の世界を、追いつめてきたと言えると思います。

いいえ、それは、今世に始まったことではありませんでした。

ただ、今世の私の肉を通して、ようやく、そのことを感じ始めただけで、これから、書き記していきますが、それは、それは、私達は、遠い、遠い過去からのお付き合いだったのです。

それにしても、やはり、何の変哲もない老人を思うことは、なかなか難しいと思います。

あの老人が、自分に夢と希望を与えてくれるなど、誰も本気にそうは思わないでしょう。そう、それが正解なのです。老人は老人です。その姿、形からは、あなたに夢と希望を与えてくれるとは言い難いでしょう。

これまでに、形を基準として生きてきたから、みんな特別ということに憧れるのです。どこにでもいるような平々凡々な姿、形、もうそこでブレーキがかかってしまいます。

話の中身にもっともだと賛同したり、惹かれるところがあつたとしても、そのブレーキは案外大きなものです。

というのも、やはり、目の前にある生活が自分の現実だからです。大抵の人は、話は話、生活は生活と器用に区分けして、日常に戻っていきます。いい話を聞かせてもらったという程度に終わってしまうのです。

仮に、その話を日々の生活に活かしていくことはできても、学びが人生なんだ、田池留吉の世界を知っていくことは、自分の人生を知っていくことだ、自分を知っていくことだ、というところまで心酔していくことは、なかなか難しいと思います。

もちろん、何年も学んできて、肉の生活が百パーセントであるとは言いません。そうであるはずはないでしょう。そうではないかもしれませんが、ただ、まだまだそのパーセンテージは高いと思います。なんだかんだと言っても、やはり、肉です。なかなかその肉という壁を取り払うことは難しいと思います。余程のことがない限り難しいです。

ただ、自分の身の回りに起こる色々な出来事、色々な人との接触から、ああ、やっぱりこの学びだと感じていることは感じていると思います。そう思っているものの、しかしながら……と続いていくのが肉基準の頑固な壁です。それが他力の心です。

それぞれに、その頑固で強固な壁を目の前にして、ため息が出ることた

びたびではないでしょうか。

それでも学びに触れ、心を見ようと思い、真面目に学びと取り組んできた人達は、自分の中から学びを捨て去ることはできません。絶対にできません。そういうことを、これからそれぞれの時間の中で、きっと知っていかれると思います。

また、本当のことを、どんなに何度伝えてもらっても、教え込まれても、自分の心で気付かなければ、何も始まらないことも分かってきます。

田池留吉が伝えようとしている世界は、そんな世界です。

その気付きを、これから、それぞれの時間の中で自らに用意しているということです。

自分で気付いていけば、自分で一步を踏み出していきます。いいえ、一步を自分で踏み出していかなければならないのです。

いつまでも指示待ちでは、それこそ、いつまでも他力の中から抜け出るなどできません。

そして、自分で一步を踏み出せば、さらにもう一步と自然に足が出ていきます。喜びで次の一步を歩める、その喜びがさら一步を歩ます、そういうことです。いい循環が自分の中で自然にできてくるのです。

もちろん、一步を踏み出すということは意識の世界のことですが、それは肉の自分にも影響してきます。意識の世界に変革が起こってくれば、必ず、それは形として見えてきます。

まずは、生活のリズムが整ってきます。自分の意識の世界を修正していくと、本気になって真剣になってくれば、必ず、生活のリズムは整ってくるのです。

それは、この学びを自分でやってみれば分かります。

自分を修正していくためには、心を見ること、自分のエネルギーを感じていくことが第一です。そして、それには、ある程度の体力と気力が絶対に必要だと分かるからです。

心が敏感であるとかそういうことよりも、元氣な身体と前向きな気持ち、

これが必須条件です。

人間は、誰しも、もともと敏感なのです。しかし、闇に敏感であれば、その軌道修正に多大な時間と労力を要します。それよりも、肉、肉であっても、よし、自分を見てみよう、自分の意識の世界に変革を起こそうと決心したならば、その時から、一生懸命に自分を見つめていけば、もともと敏感な心は、正しい方向に反応していきます。必ず、そうなります。ただし、決心と真摯^{しんし}な思い、ひたむきな思いが必要です。どれひとつ欠けてもダメです。

その過程で、闇のエネルギーを感じていっても、身体は元気だし、気持ちには前向きだから、そして、まだまだ肉の思いが強いから、そのエネルギーに翻弄^{ほんろう}されることはありません。

むしろ、そういうエネルギーを感じられることが、何か学んでいるという張り合いがあつて、肉でも嬉しくて楽しくて——ということだと思っています。

闇のエネルギーに翻弄^{ほんろう}されて苦しくて怖いというよりも、開放感が充満していき、嬉しいとなつていくでしょう。玉虫色の肉の世界にこだわって生き

てきたことが、何となくバカらしくなります。どうでもいいよとなってきました。どうでもいいというから、肉のことは何もしいとか、いい加減にしていくなのでもないけれど、とにかく、こだわりが薄くなってきました。

そうしているうちに、正しい方向に反応してきた心の中に、微かながら優しさや温もりが感じられるのです。

「気のせいかなあ、いいえ、確かに感じたなあ」というところから始まって、やがては意識の世界の不思議と驚きが心を埋め尽くし、ますます、学びにはまっていくというか、何の変哲もない一人の老人、田池留吉にはまっていくというか、そういうことだと思います。こんなにおもしろいことはないと思います。

そのように正しい手順に従って、あなたも心を見ることを実践していけば、やがて、あなたの口が自然に動き出します。瞑想をしている中で、口が自然に動いて何かを語り出します。それは、あなたの頭で組み立てられたフレーズではないんです。自分の思いが頭を介さずに出てくるというわけです。

何を語っているのか、どういう意味なのか、そういうことをいくら考えてみても仕方ありません。それは、自分のエネルギーが音という形となつて出てくることなのだと思います。もちろん、エネルギーだから、プラス、マイナス様々です。また、日本人だから日本語だということでもありません。いいえ、日常的に使っている言葉よりも、もっと素直にストレートに、自分の思い（エネルギー）が、音として自分の中から飛び出てくるのです。

私達は、それを異語と言っています。もちろん、田池留吉も異語を語ります。この異語がとても大切なんです。異語を語り合えること、これが喜びなんです。あなたも学んでいけば分かります。

異語はエネルギーです。異語は波動です。波動の世界を感じ合える喜びを、私達は異語で伝えます。私は、異語は、宇宙のリズムだと感じています。

どんどん、異語で語っていくことを実践してみてください。段々やっているうちに、それが必要なことなら必要なときに、それは、それぞれの日常語に変換されて出てきます。

私は、日々、異語とともに瞑想を続けています。瞑想をする中で、田池留吉に思いを向けると、心に伝わってくる世界があります。それは限りない優しさと温もりの世界です。

私は、その波動の世界を感じ、異語で応えます。それがとても嬉しいです。心に伝わってきます。喜びと優しさが伝わってきます。そして、力強さも感じます。静かな、そして、ゆったりとした時間と空間です。そんな中にあることがたまらなく幸せなんです。

田池留吉の世界は心で感じていく世界です。限りはありません。無限大に広がっていく世界です。その中に共にある喜び、その喜びを感じていけば、どう存在していけばいいのか、自ずと答は出てきます。大切な今という時だということが、はつきりと分かります。

瞑想をする時間を持つことが、最大の幸せでしょう。反対に、お金も健康もあって何不自由のない生活が用意されていても、何のために生まれてき

たのかを心で感じられなければ、最大の不幸せでしょう。

肉を持ったことを最大限に活かして、幸せな自分に出会いましょう。「お母さん、ありがとうございます」と心から言える喜びを、一人でも多くの人が、自分の心の中で味わえたならと思います。

「お母さん」と心で呼べば、無条件に嬉しい、喜びの思いが湧き起こってきますか。その世界は、本当に喜びと温もりに包まれた世界です。ただただ嬉しい、ありがたいの世界です。

7. 心を向ける、合わせる

さて、瞑想をすることは大切なことですけれど、一番難しいのは、何に心を向けるか、何に心を合わせるかということなのです。

瞑想、いわゆるメディテーションは一般的なものです。やっている人達は、世界各地でやっています。

しかし、果たして、その心の向け先にあるものはどのような世界なのでしょうか。

どのようなエネルギーと繋つながっている世界なのか、思ってみたことがありますか。

盲目的に、そして、あまりにも無防備に瞑想をしたり、精神統一をしたりしていませんか。

人間は満たされない心、根源的な寂しさを抱えていますから、癒し、安らぎを求めていきます。癒し、安らぎと言われる世界も、ちよつと危ないかも知れません。あまりのめり込んでいくと、癒しが癒しにならず、安らぎが安らぎにならないという可能性は高いです。心がほつと落ち着くとか、安らぐとか、その程度で納まっている場合は、特段の問題はないと思いますが、それ以上のレベルを求めようとするのは、本当に危険です。たかが癒し、たかが安らぎではありません。

瞑想をする、精神を統一する、癒し、リラクゼーション、私達は日常生活の中で何気なくやっていることかもしれないませんが、自分の心を見るということを知らずに、目に見えない世界を求めていく危険性を充分に孕んでいます。しかし、そんなことは、誰も教えてくれません。

殺伐とした世の中だからこそ、人はそういうものを求めていきます。癒されたのです。安らぎたいのです。ゆったりとのんびりとリラックスできる時間と空間を、人の心は求めていきます。果たして、その求めていく世界と

はどんな世界なのでしょう。

表立って、宗教という看板は掲げていないかもしれませんが。

しかし、その中には、多分に宗教色が強いものがあります。そして、ほとんどがパワーの世界です。そこには、先生と呼ばれる人、あるいは、指導者とか、特に名称にこだわりませんが、そういう人達が必要です。

問題は、そういう人達がどの方向に心を向けているか、どんなエネルギーと通じているかです。

もっとストレートに言えば、そういう人達の中に田池留吉を知り、田池留吉に心を向けることを知っている人がいるかと言えば、ノーです。

だから、どの方向に心を向けているか、どんなエネルギーと通じているかと言っても、全部ブラックなんです。つまり、闇です。

闇に心を向けても、闇は闇です。そういうことが、心を見ることを知らない人達、見ない人達には、全く分からないことなんです。

分からないうちに、知らず知らずのうちに、闇の深みにはまっていく危険

性が充分にあるということです。

私達は、それを田池留吉のもとで学んできました。田池留吉の世界に心を向ける、合わせる瞑想は、そういうものとは全く違う、根本的に違うことを、自分の身をもって学んできたのです。これほどの幸せはないのではないのでしょうか。

もちろん、田池留吉の世界に心を向ける、合わせるというのは、田池留吉という人物に心を向ける、合わせるということではありません。従って、田池留吉が、私のほうに心向けなさいという、私とは、一体どのようなものなのか、ここを間違えれば、それは、従来からある他力信仰と何ら変わりはありません。ここが、真実を知っていくかどうかの最大のポイントです。

しかも、そう簡単には、田池留吉のほうに心を向けることはできません。

なぜならば、私達は、何も考えずに、何も思わずに心向けることをしてこなかったからです。

欲深い私達は、ただ思う、ただ心に向けていくことができなくなりました。

他力信仰を重ねてきた私達人間が心に向ける場合は、必ずと言っていいほど、あなりたい、こうなりたい、ぜひこうしてください、私の願いを叶えてください、あるいは、自分は素晴らしくなりたい、パワーが欲しいという、諸々の欲の思いがあります。さしずめ、この学びで言うならば、田池留吉の世界が知りたい、真実の世界を知りたいということでしょうか。

そして、そのような諸々の思いが、欲の思いだとは、なかなか分からずに来たのです。

自分達の幸せや繁栄を願い、祈るのは、人として当たり前だと思っています。よもや、そうすることが間違っているなどとは、全く考えもしていません。

日本の国で言えば、正月に神社に詣でるのは、普通のことです。必勝祈願、合格祈願、安全祈願、願掛け等々も一般的だし、山開き、海開き等々には必ず、神事が執り行われます。山が、そして、海が御神体なんです。別に、これは日本の国だけではなくて、世界各地で、人間は神に祈りを捧げ、神に忠誠を

誓い、そして、仏、あるいは神のご加護を請うてきました。これが私達人間の歴史です。

そのように果てしなく続いてきた歴史の中で、願い、祈る心、念じる心は実は間違いいであって、自分達に繁栄と幸福を呼び寄せるところか、それらの心こそが闇であり、自分達を苦しめていると気付いた人など、これまで皆無でした。

だから、願い、祈り、念じる心を自分の中から解き放していくことは、至難の業です。

なぜ、願い、祈り、念じることは間違いないのか、闇なのでしょう。

誰しも幸せになりたいと願うのは当たり前です。

しかし、田池留吉は言いました。

私達は、もう、すでに幸せな存在です。

なぜ、どうしてそういことがサラリと言えるのか、田池留吉の話聞き、これまでの年月をかけて学んでこられた人達の多くも、その真意がなかなか

分からなかったのです。

今現在も、心で分かっている人の数は、決して多くはありません。

それでも、田池留吉が、さあ、これからセミナーを開きますよと、ひとたび声をかけたなら、今も、おそらく、たくさんの人達が、嬉しそうに全国各地から集まってくるでしょう。

それは確かです。

その人達は、一体、何に魅力を感じているのでしょうか。

集まってきたからといって、特にどうということはないのです。

二泊三日のセミナー、人によつては、一泊二日のセミナーに参加するために、時間を作つて、お金を工面して、そして、家族や職場の人達に不便をかけて、せつせとセミナー会場にやってくるのです。

しかも、ほぼ全員に共通なのは、嬉しそうに、幸せそうに集まってくるといふことです。何が嬉しくて、何が楽しくてと言いたくなるような、この集団は、ある意味では不思議な団体です。

不思議と言えば、もっと不思議なのが、田池留吉です。

田池留吉という立場は、世間では普通、教祖、指導者ということでしょうが、おおよそ、田池留吉の資格好からは、その気配は一切窺うかがえません。全くの平々凡々の老人です。強いて言うならば、まあ年齢よりは元氣ももということかも知れませんが、それにしてもどこから見ても、教祖様おもむきという趣ではありません。もちろん、田池留吉という人物は、絶対にそういう教祖様とか何とかというものではないことは、「私、田池留吉と欲とは合いません」という言葉の通りです。欲の思いで、いくら、田池留吉の世界を知ろうとしても、無理なんです。分かるはずはないのです。

そういう人達は、分からないと言えないから、自分達の目指しているものとは違うとか適当に理由をつけて、途中で姿を消してしまいます。

しかし、去る者は追わず、来る者は拒まずの田池留吉は、そんなことには、ほとんど頓着せずに、本当に真剣に心から真実の世界を学んでいこうとする人達に向けて、これからどんどんその世界を語っていきます。

もつとも、高齢な田池留吉の活動範囲は、自ずと限られている現在ですが、その意識の世界は、喜び、喜びが溢れていると申し上げていいでしょう。

田池留吉の資格好からは、到底窺^{うかが}い知れない意識の世界からの通信を、私は、これまでも受けてきましたし、これからは、さらに、その世界を感じていきます。

有体^{ありてい}に言えば、本当のこと、真実の世界は、人の姿、話す言葉、所作からは、決して判断できないのです。

どんなに立派な肩書きがあつて難しい話をされても、立派なことをおっしゃっても、その人の意識の世界が真実の世界と通じていなければ、つまり、自分の本当の姿、人間の本当の姿が何なのかを心で知ることがなければ、所詮、そういったものは、ほとんど値打ちはないのです。ただし、世の中は違います。世間では、立派な肩書きや、由緒ある家柄、素敵な容姿、知的な頭脳、豊かな経済力、その他様々な技能は、それなりに有効です。

そういうものを駆使して生きていくことに、無上の喜びを感じる人達は、
枚挙に遑^{まいきよ}がありません。

そのような中において、田池留吉の世界から出てくる内容を、理解していくことは、確かに難しいです。

頭で理解していくことも然^さることながら、あなたの心で分かっていく難しさを、私は否定しません。

しかし、それでも、私は、はっきりと物を申します。

「人間の本当の幸せはここにしかない。つまり、田池留吉の世界を感じていくことしかない」と。

田池留吉の世界の田池留吉というのは、むろん、一個人を指して言っているものではありません。

田池留吉という人名がついていますが、その人個人の世界という狭い世界のことではないのです。

そもそも、洗脳をするとか、遠隔指導をするとかいうものは、本当にちっぽけな低俗な次元のものです。その行為の根底に流れるものは、我に心を向けよ、我は一番なりというブラックのエネルギーです。もっと平たく言えば、あなたを洗脳しても、遠隔指導をしても、田池留吉には、何のメリットもありません。

田池留吉の世界は、世間で言うところのギブアンドテイクではありません。ギブアンドギブ、オンリーギブと憶えておいてください。

田池留吉とともに学んでこられた人達は、このことを知っているから、きっと、長いお付き合いができているのだと思います。

また、田池留吉の世界には、化けの皮はありません。従って、はがしようがないことを、私は、学んできました。

実際、私は、最初に語りましたように、盲目的に、田池留吉様、教祖様と仰ぎ見ながら、教えを請うてきたわけではありません。

むしろ、その逆で、あいつの化けの皮をはがしてやろうという意気込みで

した。

そんな私が、よく、ここまで変わったものだ、密かに私は、思っています。それは、ひとえに、田池留吉の真実を伝えるという思いの熱さのお蔭でした。

それはそれは、根気よく待っていただきました。手取り足取りと表現しましたが、本当にその通りでした。

ただただ、真実を伝えたいという田池留吉の思いは、それこそ、昔も今も何ら変わることはありません。

年齢を重ね、形を見れば、世間一般の老人に違いないけれど、田池留吉に關して言えば、そういうものは、度外視すべきでしょう。

肉体的にも、同世代の人達からすれば、ほとんど驚異に近いです。もちろん、その意識の世界には、年齢云々がありませんから、田池留吉の思いは、なおも熱く、そして、限りなく優しいということです。

田池留吉が、そのすべてを賭けて私達に伝えたい思い、本当に今、私達に

伝えたい思いというのは、これは、本当のところは、どんな言葉を用いても的確に表現できません。

その世界を心に感じ、出てくる思いは、嬉しい、ありがとう、幸せ、喜び、そういったものです。

そういう表現に留まっているというのが、何とも歯がゆくもあります。言葉にすれば、せいぜいその程度です。あとは、それぞれが自分の心で感じていくしかないのです。

言葉で表現できる部分は、もうすでに、書籍を発刊済みです。それをいかに理解していくかは、ひとえにあなたの心にかかっています。

例えば、過去も未来も、今の一点にあると言えば、あなたはどう思いますか。文字通り、過去は、過ぎ去った時間であり、未来は、未だ来たらずの時間です。今の以前に過去があることは理解できても、未だ来たらずの未来が、今という時間と同時にあるということは、あなたの頭では、到底理解できない

いでしょう。

時間というものは、過去から未来へ流れていくものだ、あなたは、いいえ、あなたただけではなくて、世間一般はそう理解しています。

しかし、田池留吉の世界をあなたの心で感じていけば、このことも、難なく自分の心で感じられるのです。

例えば、「転生」^{てんしやう}「過去世」^{てんしやう}「来世」という言葉をどこかで聞かれたことがありますか。

前にも記しましたが、私達人間には、転生^{てんしやう}があります。つまり、私達は生まれては死んで、そして、また生まれてくるということを繰り返してきました。その数は、百回や千回どころではありません。どなたにも数え切れないほどの転生^{てんしやう}があります。そして、その転生^{てんしやう}の一つひとつがあなたの過去世ということになります。従って、過去世の数も膨大です。

同様に、これからもあなたは転生^{てんしやう}をしていきます。つまり、来世のあなたがあります。

しかし、実は過去に生まれてきたあなたも、未来に生まれてくるあなたも、今のあなたも、あなたなんです。そして、単に数の上から考えるとたくさんの方がいるようですが、実は過去に生まれてきたあなたも、未来に生まれてくるあなたも、すべて今のあなたに集約されているのです。つまり、その時々によって、姿、形は変われども、その中身は同じなんです。なぜならば、私達人間の本質は、意識、エネルギーだからです。私達の本当の姿は目に見えないもの、ただ意識、エネルギーとして、過去から未来へ永遠とある存在なんです。そして、その意識、エネルギーを本来のそれに変えていこう、つまり、あなたの中身を変えていこうと呼びかけてくれたのが、田池留吉という人物なんです。

この呼びかけは、もちろん、田池留吉が初めてです。

今まで、私達は数え切れないほどの転生てんしょうを繰り返してきたけれど、この真実の呼びかけに出会うことは、全くありませんでした。従って、私達の過去世達はみんな、つまり、私達はみんな地獄の奥底に落ちたままの状態なんで

す。なぜならば、過去世達はみんな、自分の本当の姿を知らないからです。自分の本当の姿は意識、エネルギーなんだと気付かずにいることが地獄の奥底に沈んでいるということです。

そんな私達が、今生生まれてきて、「形を本物とする思いが苦しみの根幹だった」というメッセージを、田池留吉によって、初めて伝えられたのです。田池留吉との出会いによって、自分の心を見ることを伝えられた私達だったのです。

「姿、形は変われども、その中身は同じ状態にある自分自身が、田池留吉の指し示す方向に学んでいけば、その中身を変えることができる。つまり、地獄の奥底に落ちたままの自分を変革できる。それは同時に、これから生まれてくる自分の意識の世界も変わっていくということだ。今の自分が本当の自分に目覚めていけば、自ずと過去の自分も未来の自分も変革の一途を辿ること^{たど}ができる。なぜならば、私は、過去から未来へ永遠に存在しているエネルギーだから。今の一点が過去も未来もみんな変えていくんだ。今という一

点が過去であり、今という一点が未来でもある。」

理路整然とした真理を、私達は、田池留吉とともに学んできたのでした。

田池留吉という人物を通して流れてくる意識の世界、エネルギーに心で触れることにより、ああ、これが自分達の本来の姿だと学んでいきなさいと、田池留吉は伝えてくれました。

繰り返しになりますが、田池留吉という人物はどこにでもいる普通の老人です。

ただ、三次元にいる私達に真実を伝えるためには、私達と同様の肉という形が必要だったということでした。

因みに、ここで来世のことについて、少々触れさせてください。彼はもう一度だけ、肉という形を持つてきます。

今度は、アメリカ人で白人です。名前はアルバートです。

名門で大富豪の御曹司おんざうしという境遇ながら、しかし、贅沢ぜいたくざんまい三昧、放蕩息子ほうとうむすこなどではなく、人生とは何か、人間とは何か、そして、自分とはどういうように、

いつも何かを考えている、心が敏感な青年という設定です。少々神経質という嫌いがある青年かもしれませんが、ある時期を境に、自分が生まれてきた意味をはっきりと知っていくのです。

今、田池留吉という名前がついている人物の、もう一度の転生てんしやうがこれです。日本人、男性という姿が、アメリカ人、男性という姿に変わっても、その本質は、つまり、意識の世界、そのエネルギーは変わることなく、いいえ、今度は、若さと超敏感な心と、そして、豊富な資金源と人脈も加わって、真実の道をどんどん推し進めていきます。

一方、私はと言いますと、私もまた、もう一度だけ転生てんしやうをしてきます。彼と時を同じくして、アメリカに生まれてきます。私は黒人の女性です。私自身もこれが最後の転生てんしやうです。私は、田池留吉とは違い、極貧の中、兄弟達も多い中に生まれてきます。誕生を手放しで喜んでもらえるような環境には程遠いです。名前すらまともにつけてもらえないのでしょうか。子沢山の一家は、

その日の食べる物にも事欠くような、そんな毎日です。兄弟達の中で育てられて、やがて私もどうにかこうにか成長していきます。ただ、食い扶持は自分で稼がなければなりません。そこで大きなネックとなっていくのが、黒人ということです。肌の色は真つ黒ではないけれど、黒人は黒人です。自分の人生の中で、いつも、そのことが大きなネックとなっていくのです。どんなに一生懸命働き、能力的には劣ることもなくとも、最後はそこです。黒人だから、そこでどん詰まりです。私は、私の人生とは思ひ悩んで、あてもなく街中を歩き、そして、ハドソン川のほとりに辿り着くのです。ある日、その川面をじつと見つめていた、その時に……。

はい、このように私達の出会い、これから二五〇年という時間を経て、現実のものとなっていくきます。未だ来たらずの未来、来世について、少々触れてみましたが、なぜ、そんなことが分かるのかと訝しく思う方もおられると思います。それは、その人の思いの世界が、やはり、一秒、一分、一時間

といったこの世的な時間にとらわれているからです。形を基準にすれば、過去と今と未来は別々というふうになつてくるでしょう。しかし、形ではなく意識の世界に存在しているのが私達だととらえれば、過去も未来もみんな今という一点にひとつです。これは本当に自然のことなんです。

さて、余談ですが、この私達の二五〇年後の出会いは何を意味するのでしょうか。もちろん、今世、田池留吉が伝えてくれた真実の世界を完成させていくのです。過去から未来へと続いていく意識の流れの中で、私達はこの三次元をともに超えていきましようという田池留吉、そして、アルバートからのメッセージを完成していくために、私達は、二五〇年後に再会するのです。

ところで、今、田池留吉の来世の名前がアルバートだと紹介しました。これから先の文章には、田池留吉、アルバートと併記されている箇所がありますが、そういうことから併記されているのだと理解しておいてください。

それよりも、大事なことは、田池留吉もアルバートも確かに人名ではあり

ますが、ただ単なる人の名前ではないということです。

田池留吉の世界、アルバートの世界と表現されるように、それは意識の世界を指しています。しかも、一個人の狭い世界ではないということは、すでに書きました。

田池留吉、アルバートとは波動の世界です。真実の波動の世界を、今、私達は、田池留吉、アルバートという固有名詞を使つて表現しています。その世界は、限らない広がりと言も、安らぎの世界、喜びだけの世界です。

田池留吉、アルバートの真実の世界からは、絶えず波動が流れています。絶えずメッセーじが流れています。波動はエネルギーです。エネルギーは仕事をします。どんな仕事をしていくか。それは、私達人間を、本来の私達に蘇^{よみがえ}らせていく仕事です。必然的に、形の世界は総崩れとなつていきます。

【すべてが今の一点にある。過去も未来も今の一点にひとつ】

例えば、この一文も、田池留吉、アルバートの世界からのメッセージです。真実の波動の世界からのメッセージです。頭では理解できません。なぜならば、頭脳は形を基盤としているものだからです。

このように、あなたの頭では、到底理解できない世界を、あなたの心で感じていくことを、あなたもやってみませんか。

今という時がどんな時なのか、自分とは一体どんな存在なのか、それが、自分の中で解き明かされてくる喜びを味わっていきませんか。

きつと、これからの生き方が変わってきます。

自分を自分で知っていく喜びは、何にも代えがたいものがあります。

今、あなたが自分だと思っているあなたは、本当にちっぽけな存在なのです。

しかし、そのちっぽけなあなたを通して、どこまでも広がっていくあなたを感じていくことができるのです。

その方法は、たったひとつしかありません。

そのたったひとつの方法を、私は心で知り得たし、だからこそ、名前がついている私もまた、幸せなのです。

この世にたったひとつあった真実が、田池留吉の世界だった。私は、誰はばかることなく、そう言えることが、たまらなく嬉しいです。

さあ、あなたも、あなたの頭ではなくて、あなたの心で感じてみてください。そして、そのためには、瞑想をすることがとても大切なことだと言ってきました。

ただし、すでに記しましたように、闇雲やみくもに瞑想をすれば危険だし、効果もないに等しいです。この点を充分に踏まえて、それぞれがそれぞれの生活の場で、ゆつたりと自分を振り返る時間を作っていくことが大切です。

毎日の生活の中で、時間に追われてバタバタと忙しく暮らしていくことが、あなたの人生を充実させていくとは決して思えません。

また、経済的に時間的にゆとりがある生活であっても、自分に本当のことが伝えられなければ、決して幸せな人生であるとは言えないのです。

これは、本当にそうだとうなずく人もいれば、そうでない人もいます。

そして、残念ながら、今はまだ、そうでない人の数が圧倒的に多いのです。今はまだ確かにそうでしょう。しかし、それも、これから時間の時間で、逆転していきます。

私達人間は、老いも若きも男も女も、もちろん、人種や宗教などに関係がなく、みんな、みんな、田池留吉の世界を感じていくようになってきます。

田池留吉の世界は、自分達の本当の世界だということを知っていくようになってきます。

そのような中に存在していることが、自分の心の中ではつきりと感じられることが、どれほどの喜びであるか、私は、今、それを実感しています。

学びにはまっついていき、田池留吉の世界にはまっついていけば、色々なことが心で分かってきます。自分の心に響いてきます。

例えば、宇宙という世界です。もっとも、私が宇宙と言っているのは波動

の世界のことです。それぞれの心の中にある意識の世界のことです。宇宙はエネルギーです。宇宙とは、私達の外にあるものではありません。私達の心の中にあるのです。

今、人間達が莫大な金と労力を費やして、未知なる世界を解明している。としている宇宙ではありません。

そもそも、私達人間の本質はエネルギーです。私達は、過去から未来へ永遠と続いていく意識、エネルギーです。私達はエネルギーなんです。つまり、私達が宇宙そのものです。

だから、宇宙を知っていくということは、自分の中のエネルギー、自分を知っていくことになってきます。

逆に言えば、自分の中の宇宙を知らないということは、自分を知らないということです。人間は、自分を知らないのに知っているつもりになっているから、様々なところから色々と問題が噴き出してくるのは当たり前なんです。もちろん、私達人間だけではなくて、すべてはエネルギーです。形という

ものはもともと存在しないのです。ただ、今、私達は三次元の中にあります。縦、横、高さのある三次元では、必然的にエネルギーは形となります。それにも関わらずに、私達人間だけが、長い、長い時間、あたかも形の世界が現実の世界だと信じ込んできたのです。いいえ、信じ込むというよりも、思い込んできました。そして、その思い込みがすべてを狂わせてきました。

しかし、まさに思い込みだから、もう人間の心の隅々まで浸透してしまっているのです。なかなかその思い込みを解除することは難しいです。

その解除する方法は、もはや、ただひとつしかありません。

それは、私達人間が現実だとしている形ある世界が、目の前からドツと音を立てて崩れ去っていく現象が起こってくることです。その現象が必要となってきます。しかも、常識の範囲、あるいは、これまで私達が体験、経験してきた範囲を逸脱する現象が次から次へと起こってくる必要があります。

人間は何かが起きれば、なぜ、そういうことが起こってくるのかを解明、分析していこうとします。しかし、これからは、そういったものは全くと言っ

ていいほど役に立たないほどの大規模な現象が、次から次へと起こってくるのです。

自然災害、事件、事故等々あらゆる方面から、自分達の流してきたエネルギー、つまり、自分達を知りなさいと想像を絶する大きな警鐘^{けいしょう}を鳴らしてきます。自分達を知っていくために、色々な現象が起こってくるのです。

それでは、先ほどの宇宙という世界について、もう少し語らせてください。日々、瞑想をして心に響いてきた思いを少し聞いてください。

私は、心の中の宇宙、たくさん意識達に思いを向ける毎日です。宇宙へ思いを向けることがとても嬉しいのです。宇宙と語っています。宇宙と語り合う、宇宙を思い、宇宙と語り、宇宙の思いを聞く、こんなに嬉しいことはありません。なぜならば、それが私自身だからです。

肉を持ちながら宇宙と交信できるのです。私の中の宇宙は語ってきます。喜びの中に宇宙があります。田池留吉へ心を向けることを喜びとしている宇

宙達です。例えば、こんなふうに、私の心に伝わってくるのです。



今、ひとつの肉を通し、私達の思いを語らせていただいています。私達は、地球、つまり三次元から、遙か遙か、遠い遠い空間に存在している意識です。私達は、田池留吉、アルバートの宇宙へ帰ります。喜び勇んで帰ります。その道筋を教えていただきました。これから二五〇年の時間、その中で、田池留吉、アルバートを呼び続けます。

私達もまた、その世界へ心に向けてまいります。私達の思いは、ともにひとつを目指しています。母なる宇宙へ思いを向けていきます。

母なる宇宙へ帰っていきたい、帰っていかうとするたくさんの意識達です。その中に私達は帰ります。はい、ありがとうございます。

これからの時間、私達の心の中に、ともにともにといい思いを広げていき

ます。ひとつの目覚めから、さらに宇宙が目覚めていく、たくさんの宇宙へその思いが伝わっていきます。

田池留吉、アルバートの思いが伝わっていきます。意識の伝達は、光よりも速いです。

二五〇年後という一点を境にして、私達は、今よりもっと速いスピードで母なる宇宙を目指してまいります。

ひとつ、ひとつを感じます。はい、私達に思いを向けてくだされば応えます。通じています。私達の思いは通じています。ひとつになって、心を見てまいりましょう、そのように通じています。心の中に喜びの思いを広げていける、田池留吉、アルバートと呼んでいける、その喜びを私達も共有しています。ともに心を見てまいりましょう。ありがとう、嬉しいです。



このように、瞑想をしている私の中から伝わってくるメッセージがあります。その中に「母なる宇宙」とあります。

「母なる宇宙」とは、一言で言えば、私達のふるさとです。喜びと温もりだけの世界です。そして、その世界は、どこか遠くにあるわけではありません。母なる宇宙を指すという表現から、そうとらえられるかもしれませんが、喜びと温もり溢れるふるさととは、私達の中にあります。言うなれば、私達の本質が、喜びと温もり溢れる世界、そのものなんです。私達は私達のふるさと、母なる宇宙へ帰ろうとしている途上にあるのです。それが意識の流れ、その流れの中の今という時間と空間なんです。

私の中には、母なる宇宙へ帰る、その道筋しかありません。田池留吉、アルバートの宇宙へ自分の思いを向ける、その喜びと幸せを心で感じています。本当に今世、肉をありがとう。狂った暗黒の意識の世界よ、本当にありがとうございます。このように肉を持って、狂ってきた意識の世界を見させていただきました。

今世、その過程を経て、今、瞑想をすること、心を宇宙に向け、宇宙と語り合うこと、それが本当に大きな喜びとなつて、心に返ってきます。

宇宙を思う私は喜びです。宇宙が待っていることが喜びです。たくさんの宇宙に真実を伝えていく喜び、宇宙とともに次元を超えていく喜び、その喜びが確実に私の中に広がっています。

さらに、私の瞑想は続きます。



遥かなる宇宙、愛しき宇宙です。

田池留吉を思い、宇宙を思う今の時間、本当に幸せです。心に伝わってくる思いは喜びです。はい、ありがとうございます。

伝えたかったこの思い、真なる世界へ繋が^{つな}っていることを伝えたかった。

田池留吉に心を向けています。たくさんの方の意識達を感じます。

瞑想をする時間はとても幸せな時間です。目を閉じて心を向けられることが幸せです。

心を大きく、大きく広げていきます。どんどん心が広がっていきます。温かい温もりが心に広がっていきます。幸せです。

幸せを感じるのに、本当に何も要りませんでした。この心があればそれでよかった。心から湧き起こってくる喜びの思いは、私のものでした。

絶対に消え去ることのない喜びと幸せ、ああ、そうなんです。思えばいつも応えてくれていた田池留吉の世界でした。優しくて、限りなく優しく、広くて温かい思いは、いつも私とともにありました。

思えば嬉しい、思えば幸せ、思えばありがとう。本当にありがとうございました。



広い、広い、とらわれない世界、自由に羽ばたいていく世界、そんな世界が田池留吉の世界。その中に自由に羽ばたいていける喜び、温かい温もりの中にある優しさ、田池留吉の世界を言葉で表現するならば、そんな世界です。

田池留吉と呼べる幸せを感じています。

心に何もありません。何のわだかりも何もない。ただただ喜びが、静かに、静かに広がっていく……。温かい優しい温もりが広がっていく……。そんな中にいるんです。

目を閉じて心を向ければ、そのような世界に通じています。私は、幸せです。私達は幸せです。どこまでも、どこまでもこの喜びと温もりの世界にある私達なんです。私は、自分の中にこの世界を広げています。

宇宙が語ってくるんです。宇宙が語ってくる喜びを感じています。

宇宙に思いを向けると、異語が自然と出てきます。異語でリズムを語っているんです。異語で語り合う喜び、そんな喜びの中にあります。

異語は喜び、喜びの波動、喜びのエネルギーです。

田池留吉、その世界、その宇宙の中にある喜びを、異語で奏かなでます。このリズムに乗って、私はすべての宇宙に伝えていきます。波動を伝えていきます。心の中に、田池留吉を思い出していきましょう、そのように伝えていきます。

軽やかに、軽やかに飛んでいる意識。その意識の中にある私達。

その意識が肉を持った途端に、苦しく苦しく、重く重く閉塞へいそくてき的な中にあるんです。その違いを心で感じていきます。

ああ、肉って重いものなんだなあ。肉の世界って重いものなんだなあ。そんなことを感じていきます。

私達の宇宙には、とてもとても大きな温もりと喜びの世界があるんです。そのような誘いざないの中にある私達です。今、私は、ともに心を向けよう、合わせよう、そうやって呼びかけています。これが私の宇宙です。

今、私は、喜びで伝えていきます。田池留吉の世界は、そんな世界ですよと伝えていきます。心の中に感じていけること、喜びです。喜びが喜びを誘いざなって

くる、それが田池留吉の世界です。

私は、瞑想をする時間がとても嬉しいです。幸せを感じる時間が瞑想の間です。



田池留吉、私の中にお母さんの優しい温もりを感じます。

宇宙に向けて思いを語るとき、その温もりが心に広がっていきます。

本当に優しい宇宙でした。お母さんの温もりの中にあつた宇宙でした。こんな宇宙を、私は忘れ去ってきたんですね。

お母さん、今、あなたに思いを向けています。田池留吉に思いを向けています。優しいです。とても嬉しいです。穏やかに心が広がっていきます。

何もありません。ただただ穏やかに、静かに心が広がっていきます。

そんな中にあるんです。その中で、私は自分を語ります。

嬉しい、ありがとう、お母さん、ありがとう。

喜びと温もりが心に広がってくるよ。

お母さん、ありがとう。優しい私が待っていました。本当にこんな世界がありました。

優しい私が手を広げて待っていていました。

はい、嬉しい。お母さん。田池留吉。

優しい、優しい世界、温もりの世界を伝えていけること、喜びです。

田池留吉の世界に心を向けること、喜びです。

ひとつ、ひとつ、ひとつの喜びを伝えています。田池留吉、私は田池留吉の世界とひとつ。はい、ひとつです。



私は、まさにこれから文字通り、田池留吉の世界を心で学んでまいります。

気負うことなく、頑張ることなく、淡々と瞑想を続けていきます。

心に感じられる世界は、確かなものです。

私は、宇宙とともに存在している意識、宇宙とともに喜びを共有している意識です。

田池留吉の世界、その宇宙を、楽しみながら、喜びながら、宇宙とともに心を広げていくでしょう。

田池留吉、今世の出会いを本当にありがとうございます。心からありがとうございます。

肉体細胞よ、肉体細胞にありがとうございます。

この肉をありがとうございます。肉体細胞に支えられて、私は存在しています。今、私は、肉を持っています。肉体細胞のひとつひとつに「ありがとうございます」を向けています。

本当にありがとうございます。嬉しいですね。ひとつひとつの肉体細胞が喜びを伝えてきます。

はい、ありがとうございます。ああ、お母さん、ありがとうございます。肉をいただいた喜びを堪能たんのうしています。心の中を感じていけることが喜びです。

長い、長い時間の中でつけてきた心の垢あか、心の傷。今、私は、その心の垢あかや傷を、ひとつの肉を持って見つめています。

宇宙を思えることが嬉しいのも本当です。宇宙は私にとって喜びです。パワーを誇ってきたけれど、心は暗黒の中に沈み込んでいました。苦しいからパワーを求めてきたその心、今、私の心を感じています。田池留吉の世界を思えば、このことが出てきます。

私は、この地球上に気の遠くなるほどの長い時間、その心のままでずっと過ごしてきました。心の垢あか、心の傷は、積りに積り、私の中にしっかりと残っていました。そのすべての私を抱えて、今、このひとつの肉をいただいています。そして、私は、今、この肉体細胞とともに、田池留吉の世界に心に向けています。

お母さん、私の心は本当に感謝の思いで爆発寸前です。これからの二五〇

年の間、この心をしっかりと見つめていきます。

二五〇年後の肉に繋^{つな}ぎ、私は、その間に見つめてきた自分の思いを、その肉を通して、宇宙に向けて爆発させてまいります。次元移行には、そのエネルギーが必要です。私は、その道筋を今、心に感じています。

田池留吉と出会い、私の喜びは確かなものになりました。田池留吉の意識の世界、その世界は、私に力強く教えてくれました。

「心を見つめていくことが喜びです。あなたの心の歴史を私とともに見つめていくことが喜びです」、そのように、何度も、何度も伝えていただきました。私は、田池留吉とともに心を見つめてきました。田池留吉の世界に歯向いながらも、自分を見つめてきました。

田池留吉の思いを心を感じながら、だからこそ、できた作業でした。

すごいエネルギーを培^{つちか}ってきた私の心の中にあつたものは、ただただ真実の世界に帰っていかうとする私の真なる思い、本当の優しさ、本当の喜び、本当の温もりの私でした。

私は、その本当の自分と出会ったのです。今世は、本当に大切な時間でした。肉體細胞に思いを込め、この肉體細胞がある限り、私は、肉體細胞に思いを向け、ともに歩いてまいります。そして、私は、やがては、この肉體細胞にも別れを告げ、この心を二五〇年の間、しっかりと見つめてまいります。

心の中に培^{つちか}ってきたエネルギー、本当にありがとうございます。宇宙に向ける喜びを心を感じている私でございます。

8. 田池留吉とは、

遠い、遠い過去からのお付き合いがありました

私は、今、田池留吉という人物を通して、田池留吉の世界を心に感じていきます。

田池留吉の世界は波動の世界です。そして、私の世界も波動の世界です。真実を伝えにきた意識と、真実を忘れ去り苦しみ喘ぎ^{あえ}続けてきた意識。その出会いが、今、現実のものとなっているのです。

私達、もともとはひとつでした。しかし、ひとつはイヤでした。同じはやでした。同列はイヤでした。その心の歴史は遙か昔から永遠と続いてきました。私達は、縦、横、高さのあるこの三次元の形の世界で、なお一層その思いを募らせてきました。形としての自分を認識する思いを強くしていく一

方でした。

我が世界を築きたい、我が勢力を誇示したい、我一番の頂点に立ちたい、そのようなエネルギーを増幅させ続けてきたのが、これまでの転生てんしょうだったと言えるでしょう。

それらの思いは、もちろん、闇です。ブラックです。我と我以外を区別する思い、組くみし易やすいものは配下に置き、そうでないものとは徹底的に闘い、排除する思い、そのようなエネルギーを心に溜め込んできたのです。

例えば、これから頻繁に登場してくるアマテラスという意識。

アマテラスは、一言で言えば、闇、ブラックを代表するエネルギーです。しかし、このアマテラスに代表されるブラックのエネルギーこそが、他でもない、田池留吉という意識を待ち続けてきたのです。もともとは、すべてがひとつの世界にあったのに、自らその世界を捨て去ったのです。それを自らに知らしめたかったのです。そして、我一番と叫ぶ心の苦しさ、辛さ、空しさから、自分を解き放していきたくったのです。

これらの思いが非常に強い意識達が、今世、アマテラスの国、日本に肉を持って、田池留吉の学びに集ってきました。どうしようもないほどの闇の中で、真実を伝えてくれる意識との出会いを、今世待ち望んできたのです。ともに学ばせていただいた意識達は、それが自分達の計画でした。もつとも、その計画を予定通りに遂行^{すいこう}していくかは、それぞれの問題です。ただ、そういう計画はあった、それは事実です。

もちろん、自分に目覚めるチャンスは、すべてに公平にあります。今世は出会いがなくても、これからの激動の転生^{てんしょう}を経て、私達が肉を持つ二五〇年後の出会いで、意識の流れに、自分をすーっと乗せていく計画もあるでしょう。そのような計画がある意識達の存在を、私は心で感じています。ということは、これからの地球上での転生^{てんしょう}は、それだけ大変だし、すごいということです。

以下、真実を伝えるにきてくれた意識と、真実を忘れ去り苦しみ喘^{あえ}ぎ続けて

きた意識のやり取り、および、真実の世界に触れた意識の喜びを聞いてください。



私は田池留吉です。私は真実を伝えにきた意識です。その意識が、ひとつの肉を持ってきました。あなたが感じている通り、私は真実を伝えにやってきた意識です。

その意識がこの地球上で真実を伝えるために、三次元で真実を伝えるためには、私も肉というものが必要でした。

ひとつの肉を私はいただきました。自分に用意しました。その通りです。

私は、アマテラスの国、日本に肉を持ちました。アマテラスの意識を目覚めさせるためです。アマテラスの意識、この宇宙を制覇^{せい}してきたアマテラスの意識を目覚めさせるために、私は、アマテラスの意識が具現したこの日本

の国に肉を用意してきましたのです。ひとつの肉を用意し、環境を設定してきました。心を見る環境です。

肉を持つということは大変なことです。肉を持つて、私は、この三次元の地獄の中に降りてきました。私自身肉を持ち、これまでに、地獄の様相を心で感じてきました。それは、私の意識の世界を変えろという意味ではありません。あなたもご承知の通り、私には転生てんしょうがありませんから、私の意識の世界を根本的に変えていくことは必要ありません。ただ、肉を持った以上、私もその地獄の様相を自分の中で知っていったに過ぎませんでした。言わば、あなた方と同レベルまで私の意識は降りていかなければなりませんでした。

そんな状況の中で、私は、今世、ひとつの肉を持ち、ずっと肉の人生を歩いてきました。自分の職業を通し、地獄の様相を感じてきました。自分の家庭から、私は人間の愚かさを感じてきました。

私の妻、子供、すべては愚かな生き物です。愚かな転生てんしょうを繰り返してきた

真つ黒な暗黒の世界を心を持っている意識達です。その意識達とともに、私は、今日まで時間と空間をともにしてきました。

もちろん、それによって、私の根本的な思いが揺らぐことはありません。なぜならば、私は、真実を伝えにきた意識だからです。

ただ、目の前を通り過ぎていくものを、私は、映像として見てきました。

もつとも肉を持っていますから、肉の部分に近い思いは、その映像によって心が揺らぐことはあります。しかし、私は、そんな時も、ふつと自分を思い、ふつと心を向ければ、そういうものは、私にとっては、また、映像にしか過ぎないとなってくるのです。

それらが、私の中から波風を立てるものではない、そのようにして、私は、日々を過ごしています。



はい、田池留吉。私は塩川香世です。あなたとともに真実の道を学んできました。あなたが指し示した真実の道を、私は、しっかりと見つめ、今日まで学んできました。

私の中には、数え切れない転生^{てんしやう}の歴史があります。あなたとは違います。私は、暗黒の宇宙を心に広げてきました。たくさん^{あえ}の苦しみ喘いでいる意識とともに心に携えて、このひとつの肉をもらってきた今世です。当然、そんな私が、あなたの指し示す方向を向くまでは、本当に大変でした。

しかし、私は自分の心を見ていく中で、今世に賭けてきた思いがとても強いことを知りました。今世、あなたがこの日本の国に肉を持つ、田池留吉の意識が肉を持つということを知って知っていたから、私も、同時期に何としても、アマテラスの国、日本に肉を持ちたかったのです。

私は、宇宙をあまねく支配してきたアマテラスの意識、そして、もっと、もっと大きなエネルギーで宇宙を支配してきました。だからこそ、私は自分の意識の世界の変革を今世に賭けてきたのです。

田池留吉という意識、真実を伝えにきた意識とともに、そこで自分を見つけていく、自分を変えていく、そのために、私も肉を持つてくるという計画を立てました。私は、それをしっかりと自分の中で確認しています。

だからこそ、田池留吉と思えば、私の中には、無限に広がっていく喜びの世界があります。温もりを感じます。それは、ただただ温もり、ただただ優しい、ただただ広がり、そんなものではありません。

私が私のすべてを賭けてきた今があるのです。田池留吉、あなたが真実を伝えにやってきたこの今という時に、私も自分のすべてを賭けてきたのです。そのことを私は、心で感じています。それが私の目覚めです。意識の目覚めです。私は、自分の意識に目覚めました。宇宙を支配してきた暗黒の意識が、自分の光を信じて、本来の自分の姿を信じて、こうして、今、存在しています。目覚めです。私の目覚めは確かなものです。

計画通りでした。自分の中の宇宙を変えていこうとする私の思いは、私を目覚めさせました。田池留吉という意識が、この日本の国に肉を持つてきた

時期に合わせて、私もまた、肉を持ち、その目覚めを促しました。

これから二五〇年続いていく時間の中で、私は、あなたとともに宇宙を変えていきます。宇宙にいつも、いつもメッセージを送り続けます。そして、二五〇年後、私達はまた、同時期にほぼ同じ場所で肉を持つのです。私達の出会いから二五〇年後が始まる、それは、もうすでに、私の中では、はつきりとした現実です。



アマテラスの世界に生きてきた心、その心を、それぞれの心の中でしっかりと見ていき、その心を語り、その心を自分の中の優しい温もりで包んでいくことが必要なことでしょう。

アマテラスを避けては通れません。アマテラスの心を心として、宇宙に勢力を伸ばしてきたエネルギー、そのエネルギーが、今、田池留吉のもとに集い、

自分の心を見る、自分のエネルギーを知ることを実践しています。

アマテラスに心を向けてきたからこそ、今世、田池留吉の学びに集えたのです。日本の国に肉を持ってきた意識達よ、アマテラスの思いを、どうぞ、どうぞ、しっかりと見つめていってください。

アマテラスの心を見つめていけない限り、宇宙を、自分の中に広げてきた宇宙を、喜びに変えていくことはできません。それほどアマテラスは、広く、広く、それぞれの心に浸透しています。だからこそ、今世、肉を持って学びに集えたのです。

宇宙を思えばアマテラスでしょう。アマテラスのエネルギーは大きなものでした。もう一度、いいえ、何度もアマテラスを見つめていってください。

アマテラスに使ってきた心を、ともに、ともに見つめていってください。

母の温もりに帰るためには、アマテラスの思いを、しっかりと自分の中に受け入れていかなければなりません。

他力のエネルギーと一口に言っても、それは本当に根深いものです。その

根っこにあるアマテラスのエネルギーを、しっかりと、自分の中で見つめていくことです。

私は、アマテラスとは関係がない。私は、イエスを崇めてきた、イエスを心に入れてきた。そのようにおとしやるかもしれません。

ある人達は、イエスを神として崇め、キリストの教えに従ってきたと言います。そして、また、ある人達は、私は、何々の宗教に心を向けてきた、信じてきた、打ち込んだと言います。

しかしながら、宇宙、その意識の世界を心に感じてみてください。やはり、アマテラスです。アマテラスは、どなたの心にも浸透している思いです。そのアマテラスのエネルギー、宇宙に闇を広げてきたアマテラスのエネルギーは、どなたの心にもしっかりと残っています。そのアマテラスの思いを見つめていくことこそ、他力の反省に繋が^{つな}っていくのです。

アマテラスの心を見つめていく、アマテラスを知っていく、アマテラスを自分の中で受け入れていく、そのことをやっていかなければなりません。そ

れぞれの中で、それぞれが広げてきた宇宙を変えていくこれからです。

もちろん、宇宙を支配してきたエネルギーは、アマテラスのエネルギーだけではありません。しかし、アマテラス、まずはアマテラスなのです。

それは、私、田池留吉という意識が、初めて肉を持ったのが、アマテラスの国、日本だということからも、お分かりいただけただと思います。真実の世界への目覚めは、まずアマテラスの国、日本からでした。しかし、私と学びをともにしてくれた人達の心の中には、まだまだ、アマテラスがしっかりと鎮座しています。

まずはアマテラスに思いを向け、優しい思いを向けてください。田池留吉の思いを伝えていってください。田池留吉のメッセージ、そして、優しい温もり、母の温もりを、アマテラスに伝えていってください。



田池留吉、私は、真実を探し続けてきました。真実とは何か、自分の心の中を探し続けてきました。それ故に、他力のエネルギーを心に蓄えてきました。他力を求めてきた過去があります。他力のエネルギーの中に埋もれてきた私がありました。そんな私が、今世、肉を持ち、あなたとの出会いを果たしました。私は、何をおいても田池留吉との出会いを果たしたかった。田池留吉という意識の世界と出会いたかった。この思いに全く間違いはありません。

私の中に、田池留吉を思う思いがしっかりとあります。

私は、あなたとともに歩いていく意識です。おそらく、今世のあなたとの出会いがなければ、私は、永遠に地獄の奥底に沈んだままだったでしょう。その思いをしつかりと今、心に感じています。だからこそ、私は、田池留吉を呼ぶとき、心にとても大きな喜びを感じます。

もちろん、田池留吉と私との出会いがないということはあり得ないことでした。しかし、必ず出会えるということであっても、その予定通りに事が

遂行^{すいこう}していくことに、私は驚きと嬉しさの思いを禁じえません。

私は宇宙の変革を目指して、これから、ますます心を宇宙に向けてまいります。天変地異を起こしていくと、私は伝えました。田池留吉の意識、その宇宙を心を感じている私には、もう何も思うことはありません。ひたすら、ただただ思いを向けていくだけです。

次元移行というのも現実です。私の中ではすでに現実です。そして、いかにその次元移行を効率よく果たしていくことができるか、それがこれからの二五〇年の間にかかっていると伝えていきます。

私は、これから二五〇年に至る時間、宇宙へ思いを向けていきます。宇宙が私達を変えていくことを、私は、伝えていくんです。

私は、今、肉を持っています。しかし、私は、肉を持たずとも、宇宙へ思いを向けていくこれからの二五〇年という時間です。そして、この思いを二五〇年後に引き継ぎ、ずっとずっとあなたと歩いていきます。

二五〇年後に肉を持ち、私は、ますますこの思いを強めていきます。

二五〇年後の転生てんしやうを待っています。田池留吉の意識とともに転生てんしやうをしていくアメリカの地で、私は、すでに待っています。心の中に、田池留吉、その宇宙、母なる宇宙を呼ぶ私の意識の世界は、もうすでにアメリカの地で待っています。そこでは、多くの人達に私達は真実を伝えていきます。

二五〇年後の肉は、とても厳しい環境の中にありますが、その中から、私は、本当に目覚しく蘇よみがえっていくんです。

心の中に田池留吉、その意識が私を呼び起こしていきます。田池留吉、私はあなたとひとつ。ひとつ、ひとつ、ひとつなんです。



何物にも縛られない私の心、宇宙に広がる私の世界、意識の世界を感じます。心の中に宇宙を感じ、私は、喜び溢れる私を感じています。

真つ黒な世界を繰り広げてきた私の中に、優しい、優しい母の温もりが届

きます。宇宙が変わっていくことが喜び、私は、そのように伝えてきました。誰はばかることなく、私の宇宙が変わっていくと素直に伝えることができました。

私の宇宙が変わっていくということは、意識の世界を変えていく大きな原動力となります。このエネルギーは、大きな、大きなエネルギーです。

私は、今世、日本の国に、ひとつの肉を持つてきました。田池留吉との出会いを果たすためです。田池留吉との出会いを果たすために、私は、この肉を持ちました。

お母さん、ありがとうございます。心の中に、田池留吉の世界を、私は、どんどんどんどん広げてまいります。それが、私の喜びです。

宇宙が喜んでいて、宇宙の喜びを私は感じます。

心の中に、宇宙を呼び起こすこと、それが、私のこれからの、大きな、大きな仕事です。そのために、私は、今世、田池留吉との出会いを自分の中に約束してきました。

アマテラスの国、日本において、私は、田池留吉の意識との出会いを心に誓ったのです。

まずは、アマテラスに伝えなければなりませんでした。

宇宙を大きく支配してきた、その覇権者であるアマテラス、その意識を変えていくこと、私は、この肉を通し、アマテラスのほうに、ずっと心を向けてきました。

アマテラスの意識の世界は、とても大きなものでした。冷たく、冷たくそびえ立った我一番の世界を宇宙に広げてきた、その意識達が、今世、たくさんこの日本の国に肉を持ち、田池留吉の学びに集いました。

私は、そのことを、しっかりと心感じてきました。アマテラスの思いを見ていってください。アマテラスに心を向けてきたあなたの思いを見ていってください。そのように伝えてきました。

これからも伝えていきます。アマテラスを自分の中で解き放していくこと、それが日本の国に肉を持って、この学びに今世集ってきたあなた方の仕事で

す。アマテラスの心を心として生きていくことは、もうやめましょう。

アマテラスに伝えていくんです。優しい、優しい、お母さんの温もりを、アマテラスの心に伝えていきましょう。

アマテラスは待っています。私は、本当にこのことを伝えなかったのです。宇宙に飛び立ってきた私達の意識、その仲間。私達は宇宙に飛び立ってきました。もちろん、この宇宙には、私達の仲間がたくさんいます。

これから、二五〇年の間に、私は、その仲間達と交信し続けます。はい、とても嬉しいです。心を解きほぐして、自分の思いを語るときの喜びを、今感じています。

アマテラスの国、日本、その日本の国が変わっていく、日本の国が崩れていく、そんな中で、私は、喜びを伝えていきます。どんどん喜びを伝えていきます。ここから喜びが広がっていくのです。

宇宙全体に広がっていきます。地球はもとより、宇宙に広がっていく喜びのエネルギー、田池留吉の世界を、このように心で感じていく私の中に、も

う何も思うことはありません。

ただただ、田池留吉の世界を感じていくことだけです。

私の中にあるのは、田池留吉の世界、その意識の世界、真実の世界、ひとつとなつて進んでいくこれからの時間、私達は、本当に、喜び、幸せの道を邁進^{まいしん}してまいります。

お母さん、ありがとうございます。

長きにわたつて、肉を私にくださいました。ようやく、ようやく、今世、私は、この肉を通して、真実の世界を感じています。

この肉を通して感じていく世界を、もつと、もつと見つめてまいります。

私の二五〇年後の肉に引き継ぐまで、私は、自分の中を見つめていきます。そして、二五〇年後に肉を持ち、私の意識は、その中に喜びを大きく伝えてまいります。



はい、嬉しいです。アマテラスの喜びが伝わってきます。宇宙とともにアマテラスが変わっていった喜びを伝えてきます。

はい、アマテラスは喜びです。私の中のアマテラスは喜びです。

これからの道筋がしっかりと見えています。田池留吉とともに歩いていく道筋です。

アマテラスは苦しみではありません。アマテラスは恐怖ではありません。アマテラスは孤独ではありません。

アマテラスはすごい、すごいパワーの持ち主です。しかし、そのパワーの質が変わりました。心の中に田池留吉を素直に呼べるアマテラスは、とてもとても優しい温もりの世界を広げています。

私の中のアマテラス、そのアマテラスの心がそう語ってきます。伝わってきます。

私達とともに次元を超えていく、そんな宇宙を、アマテラスのもとに呼び

寄せています。そう、宇宙を制覇^{せい}してきたアマテラス、この地球上で、アマテラスの力を及ぼしてきました。アマテラスはとても、とても大きなエネルギーでした。ブラックパワーをこの地球上に降り注いできました。しかし、今世を境にアマテラスのエネルギーの質が変わりました。

私の中のアマテラスがどのように伝えてきます。

皆さんの中のアマテラスはどうでしょう。

私達は喜びですと伝えてきますか。私達は幸せですと伝えてきますか。暗黒の世界で孤独なアマテラスの世界を、まだ我こそ一番なり、宇宙を制覇^{せい}するもの、宇宙を制覇^{せい}するパワーの持ち主、そのようにアマテラスがまだまだ大きな勢力を振りかざしていますか。

私の中のアマテラスはとても優しいです。優しいけれど、とてもしっかりとしています。

それは、自分の姿を知っているからです。アマテラスは、田池留吉とともに歩いていく意識、そう、アマテラスの目覚めを私はいただきました。

だからこそ、とてもこれからの時間を楽しく喜びで通過していけるのです。その先にある喜びの世界に思いを向けています。

とてもとても大きな喜びです。はい、光り輝く喜びの中に、アマテラスの宇宙、その傘下にあるたくさん宇宙、それとともに歩いていくんです。次元を超えていくんです。その道筋がしっかりとついています。

この道は、もう何をもつてしても曲げることはできません。

母なる宇宙へ続く道です。はい、波動の世界、意識の世界を、私達は歩いてまいります。



お母さん、私は幸せです。お母さん、お母さん、あなたを思うとき、私は幸せです、お母さんありがとうございます、ただただそのことを伝えたい、伝えていきます。お母さん、私は幸せの中にありました。自分のこれからの時

間が感じられて、とても嬉しいです。優しい母の中にいつも包まれながら、私は、この喜びと幸せを流していきます。

思いは、もう、二五〇年、三〇〇年の向こうにあります。私は、今、その自分を感じています。

今世、アマテラスの国、日本に肉を持ちました。私は、そのアマテラスの思いをしつかりと語ることに、今世の私の学びは最終段階に入っていきます。日本の国に肉を持ったこと、そのことについて、私の中でこれからの時間、しっかりと見つめていきます。しっかりと見つめていくことにより、私は、さらなる一步を踏み出していくでしょう。日本の国に肉を持ったことをさらなる喜びとして、私は、自分の心に伝わってくる思いを語ってまいります。

アマテラスの国、日本、今世を境にここから、真実への道が始まりました。アマテラスの国、日本を、もう少し自分の中で見つめていこうとしています。それが私の今世の最終段階の学びです。この学びを自分の中できちんと仕上

げ、私は、今の肉を終えていきます。日本の国にありがとうと感謝の思いを向け、私は、さらなる歩みを進めてまいります。

アマテラスを心から愛しています。アマテラスはとても愛しいです。その思いが私の基本にあります。その思いを基本にして、これからの時間の中で、アマテラスをもっと語っていききたいと思っています。

9. 父との対話を試みました

人はやがて死んでいきます。自分の死後はどんな状態でしょうか。死んでもなお、語ることができるでしょうか。

死ねば、自分しか存在しない世界に帰っていくのです。帰っていくという表現から、どこかへ向かうようですが、そうではありません。

田池留吉の世界にしっかりと心に向け、自分の心の針をその世界に合わせなければ、人間というものは消えてなくなるものではないことを心で感じています。つまり、死んでもなお、そこに存在していると感じるので。

私はこれまで記してきましたように、田池留吉のもとで学ばせていただい

てから、すでに二十年近く経っています。

その間の大きな山場は、私の父の死でした。二〇〇一年一月に父が亡くなつてから、今年で十年目を迎えようとしています。

もちろん、その間、私自身は、田池留吉の指し示す方向に真摯^{しんし}に学んできたと思っています。十年一昔ではありませんが、十年前の私と今の私とでは、意識の世界について、格段の差があります。

今の状態ならば、学びにほとんど触れることなく死んでいった父に、何かを感じてもらえるのではないかと思いました。

生前、父は田池留吉の肉との出会いを望んだけれど叶わなかった当時を振り返り、私は、今、自分が感じている世界を、父の意識に、ほんの少しでも届けることができたらと思いました。

なぜ、私が父に対して、ここまで思い入れが強いのかと言いますと、私がこの学びでいうところの意識の転回^{ちよ}の緒につけたのが、父の死という現象だったからです。

私は、その現象により、私達人間は、死んでもなお存在している、つまり、私達の本当の姿は形ではないんだと心で本当に実感したのです。

だから、私は、あの二〇〇一年一月の時点から、本格的に真実の道を走り出したと言っても言い過ぎではありません。

そういうチャンスに恵まれ、また、そのチャンスを転機にして、私の真実への道は、一気に加速し出したのです。

もちろん、それまでに、私は、私なりに心に感じる世界もありました。真実の波動を心感じて受けた衝撃がその前段階としてありました。助走をして、来るべき時期に向けて、準備を整えていたからこそ、しつかりとチャンスを活用できたと思っています。

私の今世の計画に大きく関わってくれた父の意識に、私は、温もりを伝えたい、固く閉ざした中ではんの微かかすでもいいから、ふっと心が緩む時を感じてもらいたいと思いました。

そして、それは、その人、田池留吉が伝えてくれたことを、私の中で実証

できるいいチャンスだと思っています。

本当に心で学べば、波動として、エネルギーとして仕事をしていくことができる。そして、そうすることが本来、人間が生まれてくる理由、つまり、肉という形を持つてくる喜びなんだ。私は、この試みを通して、そのことを自分の心の中で確認していこうと思いました。

では、丹田呼吸をして、軽く目を閉じて、田池留吉のほうに心を合わせ、父を呼んでみます。以下、その作業を、少し時間をおいて、五回試みました。

【二回目】

塩川真太郎さん、あなたがその肉を捨てて、もう十年の年月が流れています。私は、当時、あなたの意識とともに、学ばせていただきました。

私は、今、あなたの意識に思いを向けています。

私は、当時から今に至るまで、自分の心を見る、そして、母を思い、自分

の中に温もりの世界、広い、広い温もりの優しい世界、本当の自分があった、その真実の世界を学んできました。

確かに心に伝わってきた世界があるんです。温もりの世界がありました。私の中に温もりと喜びと優しい、優しい母の中に生きてきた私を感じてきました。今、そのほうに思いを向け、あなたと語らせていただきたいと思っています。

心を向けてみます。

異語。

分かりますか。あなたに語りかけています。温もりの波動です。私は、あなたに思いを向けています。

.....。

異語。

.....。

お父さん、私は、あなたの意識に思いを向けてみました。何かを語りたい、語りたい、語りたいけれど語れない、重い、重い、とても重い世界にいることを感じます。

だけど、私は、あなたに、あなたは温もりなんですよ。心の中に温かい優しい思いがあるんですよ。そうやって、私は、あなたに伝え続けます。これからもあなたに伝え続けます。

お父さん、あなたを思うとき、私は、ありがとうの思いだけしか出てきません。

どうぞ、心を開いていつってください。自分の心を開いていつってください。

異語。

「神を求めてきました。心を縛って生きてきました。冷たく切り裂いてきたこの心の中に、冷たい、冷たい私がいた。苦しい私がいた。自分を殺して生きてきました。」

父の意識が、苦しい中から、少しでも語ってくれました。父の意識から、修行というものが伝わってきました。語れない世界から、少しでも語ってくれたことが、嬉しいです。意識が、ほんの少しでも温もりを感じてくれたのかもしれない。

私は、また、もう少し時間を空けて、父の意識に語りかけたいと思います。どのように変わっていくのか、変わっていくということは、そこにエネルギーが作用しているのです。

そのエネルギーを、自分の中で感じていく学びをしていきます。

父は、田池留吉の肉を知りません。田池留吉の声は、一度だけ電話を通して

て耳にしました。その意識が、これからどのように変わっていくのか、私は、自分の心で、この実践を通して学ばせていただけることを嬉しく思います。

自分しか存在しない世界に帰っていく、肉を離せば、自分だけの世界があるだけです。

死んだということも、なかなか気付けないでしょう。気付けないまま固まってしまいます。

あるいは、「自分は死んだんだ」と思った瞬間から、グワッと自分の闇のエネルギーが覆いかぶさってくる、それが死後の現実だと思っています。冷たくて、重苦しい中に自分を沈めてしまい、そのまま固まってしまいます。語ることなど、到底できないでしょう。

このことを、念頭に置きながら学びをしていきましょう。

一体、自分の意識の世界がどのような状態であるのか、自分の中で確認しながら、今世の時間を過ごしていくことが肝要だと思います。

その確認をするチャンスが、これからそれぞれの周りで現象化してきます。それらの現象とともに、自分をしっかりと見つめていくだけです。その時には、もちろん、田池留吉の肉はないでしょうし、ただ、自分を見つめていくだけです。喜びで自分を見つめ、自分を見つめながら喜びを感じていく、それが次の転生てんしょうに心を繋つないでいく一歩です。

【二回目】

父が死ぬ何カ月か前から、父の意識と学んできた思いが蘇よみがえってきます。

私は、再び、父の意識と学びたい、そんな思いが、最近出てきています。今日も、父の意識に思いを向けてみました。

塩川真太郎さん、私達は、みんな、みんなお母さんの優しい温もりの中にあります。私達の本当の世界は、温もりの世界です。

自分を縛しばって苦しめてきた世界は、本当の世界ではないんです。

自分を殺して生きてきた、あなたの過去、あなたのたくさんの意識、その世界、神、仏を求めて、求めてきた世界、とても苦しかったですね。

母を捨て、母の温もりを捨て、一人寂しく彷徨^{さまよ}つてきた世界を、あなたは、ずっと、生き続けてこられました。

そのあなたが、私達と時を同じくして、母から肉をいただきました。相変わらず、心を縛り、あなたは自分の穴蔵の中で、ずっとその生涯を過ごしてきましたけれど、あなたの死ぬ直前、少しあなたは、温もりを感じられただけです。田池留吉という世界、その温もりを、私は、あなたに伝えさせていただきました。

心からありがとうの思いを、あなたは肉を持つている間に伝えてくれました。そして、あなたはその肉を終えていきました。あなたは、あなたの世界へ帰っていったのです。

あなたの肉は、今はありません。しかし、私は、あなたの存在を感じています。心の中から、あなたに呼びかけています。私の思いは、あなたに、こ

の温もりを伝えたい、そういうことなんです。

温もりを少し感じていたきたい。そして、そんな中にいることを、ほんの少しでもいいから知ってほしいと思います。

心を開いて、温もりが私だと、そのほうに思いを向けてください。

異語。

私は、あなたに今、呼びかけています。温もりの思いで、あなたに呼びかけています。何でもいいです。あなたを語ってみてください。

異語。

あー……、あー……、あー……、あー……、あー……、あー……。

あー、この重苦しい重圧の中にある。ああ、だけど、今、語れることが、う、

れ、し、い。はあー……、はあー……、ああー……。

す、こ、し、い、きができます。はあー、息ができます。はあー、はあー、はあー。

ああー、ああー、ああー、ああー、ああー、はあー、はあー。

はい、ほんの少しでもいいです。あなたは、重くて狭くて暗い世界にいるけれど、開いた温かな明るい世界があることを、知ってください。

私は、伝えていきたいです。私も、そんな中にいたからです。

私はあなた、あなたは私。私は優しい思いを、すべての意識達に向けてまわります。

ああ、お母さん、ありがとう……、ああ……。

異語。

ああ……、田池留吉、嬉しいですよ。心に向ける喜びを感じています。

田池留吉、私は、暗い、暗い真つ暗な世界に心に向ける喜びを感じています。自分の中に、本当の喜びと温もりを知った心の中に、暗い、暗い、真つ暗な、それこそ、息もできないほどの地獄の中にある意識達に思いを向ける喜びを感じています。

はい、伝えたいです。どんどん伝えたいです。心に向けていきたいです。心に向けていけばいくほど、私の中に喜びが伝わってきます。

深い、深い、喜び、優しい、優しい、本当に優しい思いが伝わってきます。とっても嬉しいですよ。はい、どれだけこの時を待ってきたことか。はい、心の中から突き上がってくる思いは、待ち望んできた思い、意識達の喜びです。ああ……、ああ……、ああ……。

私が、父と語り合いたいという思いが強いのは、確かに肉の情という部分もあります。

しかし、私が意識の転回の緒ちよについたのは、父の死という現象に間違いはありません。

それまでの私の学びが、その現象の中で方向を定め、そして、成果を現し始めたのです。

父の病氣と死は、私にとって、大きな一点でした。

斎場で、父を見送ったときに出てきた思いは、今も心にあります。

私達は、二五〇年後に出会いましょう、私は、そう思いを投げかけました。自然に私の心からその思いが出てきました。

二〇〇一年のあの当時から、いよいよ私の真実への道は走り出したのでした。

今、田池留吉の世界に心に向ける幸せな時間をいただいています。

田池留吉の世界を思い、宇宙を思う喜びを心で確信する道を、私は、一歩、歩んでいます。今世の時間、可能な限り、私は私の中を見て、感じて、そして、真実の方向へさらに歩みを進めていこうとしています。

それが私だからです。それが私の本当の思いだからです。

田池留吉の肉、意識、私の肉、意識、すべてが、ともに、ともに学ばせていただけることが、本当に嬉しいです。

【三回目】

再び、父に思いを向けます。父の意識に思いを向けてみます。優しい思いを向けてみます。お母さんにいただいた心、ともにあることを伝えます。私はあなた、あなたは私。そのように私は、あなたに伝えます。

暗黒の世界を広げてきたのは同じです。ともに、心を見つめてまいりましょう。

はい、はい、はい、思いを語ることが喜びとしていきます。語れることが喜びです。はい、少し語れることが喜びでした。私の中に喜びの思い、温もりの思いを感じます。たくさんエネルギーの中にほんの少しだけ、その喜

びのエネルギー、温もりのエネルギーを感じます。

母の思いが少し伝わってきました。心の中に、暗い、暗い心の中に、優しい思いを感じるとき、私が私を語れます。私の中が少し緩み、私が私を語れる、その喜びを私は、今、感じています。

苦しい中を生き続けてきた心です。はい、私は、母に思いを向けなさい、そのように伝えていただきました。

母に思いを向けるとき、心の中に、この思いが出てきます。

母の思いに背いてきた心、その思いの中に沈んできた心、母に思いを向けることなく今まで過ごしてきた心、その思いがとても苦しく、私の中に沈んだ状態になっていました。

心を温かいほうに向けると、どんどん私を語りたいたいという思いを、今、感じます。お母さんと呼んでみたくなります。お母さんと呼んでみたい。そう呼んでみたい。素直に呼んでいけなかった私の中に、素直に呼んでみたいと、この心が少しだけ広がってきました。

私の中に、喜び、素直な思いがありました。お母さんと素直に呼べる私がありました。苦しい、苦しい中に生き続けてきた私でした。母の温もりなど知らなかったです。

心の中に闇をたくさん抱えたまま生きてきました。閉ざした中に、ずっとずっと閉ざした中に、重苦しい中に生き続けてきた心に、優しい思いが届いています。しっかりと、しっかりとその思いを受けていきたいと思います。

心を語らせてください。これから心を語らせてください。

呼んでください。思いを向けてください。私はそのように伝えていきます。

はい、優しい思いで抱きしめたいです。心の中に苦しい思いが感じられます。苦しい思いを抱きしめて、抱き止めて、そして、語らせてあげることが喜びだと私は感じました。心をひとつにして、心を語りなさいと、そうやって思いを向けること、それが愛でした。心を語りなさい、そのように言ってあげられることが愛でした。優しい思い、母の思いを向けること、その思い

を向けることが愛でした。母の思いを向けることが愛でした。心の中に安らぎを感じてくれている喜びが、今、私に伝わってきます。

何もなくても、この安らぎと喜びと温もりがあれば、息がつけるんだなあと思います。語れることが喜びなんですね。

少し小さな穴を開けて、そして、そこから温かい優しい思いを感じていけることが喜びなんですね。その小さな、小さな穴を開けてあげられること、そのことが喜びのエネルギー、仕事をすることでした。心に向けたとき、そのように感じます。

小さな、小さな穴でいいんです。そうやって、私は苦しい思いに、小さな、小さな穴を開けてあげられる今があります。喜びの思いを感じてくれていることを、実感しています。

私は幸せです。大きな、大きな闇を抱えてきました。私自身も大きな闇を抱えてきました。しかし、私は私の中を見つめてきました。心の中に本当の安らぎと柔らかな、柔らかな波動を持った私自身を感じてきました。その私

自身を、少し、もう少し心に広げ、そして、ふっと思えば、こうやって通じていくんですね。まだまだ何も知らないのと同じ意識に向けて、私は、このように伝えることができて喜びです。

その喜びは、大きな喜びとなって帰っていくでしょう。私は、それを信じています。このことを、私は、やり続けます。

自分の心を感じた安らぎ、柔らかな波動の世界を、ふっと心に向けることで、暗黒の世界に伝えることができます。

宇宙に伝え続けます。これが私の喜びでございました。父の意識を通して、私は学ばせていただいています。これから、そうして心に向けることを学んでまいります。

田池留吉にしっかりと心の針を合わせています。私の中に喜びが、温もりが広がっていきます。

私は、今、色々なことを試しています。

全く学びを知らなくて肉を捨てていった意識にも思いを向けています。

もちろん、今世の私に繋^{つな}がりのある意識です。

ふっと思うと、全く固まった状態の中に、苦しい、苦しい中にあることを感じながら、私は、私の思いを伝えました。

自分の心で感じてきた世界、温もりと優しさの世界で自分をしっかりと包みながら、あなたの苦しさを解き放していこう、自由にしていこうと、思いを伝えました。

語りなさいと伝えました。私は、どんな思いも、私に伝えてくださいと語りかけました。

恐怖はありません。心を田池留吉にしっかりと合わせ、私は、私を見つめながら、私の中に優しい母の温もりを感じながら、その思いで自分を包みながら、私は私の心で感じた思いを伝えていきます。

私は、それが自分の中で喜びとなりますいきます。

苦しさも語れないほど、苦しく凝り固まった状態の意識に向けて、私は、

自分の心で感じた世界を向けていく、その喜びを感じています。

少しでも、固まった状態が解きほぐされ、自分を語ることができるならば、どれだけその意識達が楽になっていくか、私の心の中で実感しています。

自分の本当の姿を知らない意識が肉を離せば、苦しみの奥底に真逆さまに落ちていくだけです。そして、もう全く身動きひとつできない固まった状態になってしまいます。

自分でそこから抜け出すことなど不可能です。心で母を呼ぶことなど不可能です。だから、心を感じた世界、その世界が、本当に自分の中で広がっているならば、その思いを、それぞれに縁のある意識に心を向ける、これが本当の優しさではないでしょうか。

もちろん、自己供養が前提です。自分の中に優しさと温もりを感じ、その思いで自分を包んでいく作業を重ねていけない限り、それはできません。まず、自分の供養です。自分の中に真実を伝えることができ、その自分を心に広げることができたならば、その思いを、それぞれの縁のあった意識に向け

る、そういうことをやってみるべきではないでしょうか。

それが本当の優しさであり、宇宙を思うことは、そういうことだと思います。

宇宙を思っていけば、何も知らずに彷徨いさまよ続けている意識達と出会います。その意識達にどれだけ伝えていくことができるか、その喜びを実感していくことができるか、それが大きな意味での供養、ともに歩いていこうとする本当の優しさ、本当の温もりだと私は思います。

【四回目】

お父さん、心を向けてみてください。

お母さんの中に生きています。お母さんの中に存在しているんですよ。

はい、心に向けてみてください。お父さん。

異語。

はい、はい、はい、ありがとうございます、心を向けてくれてありがとうございます。

はい、思いを向けてくれてありがとうございます。私に心を向けてくれてありがとうございます。

お父さん、手を合わせて念じてきた心を見つめていってください。

手を合わせ、念じる心は冷たいんですよ。冷たい、冷たい思いを流してきました。あなたの中には、安らぎが、柔らかな母の温もりがありました。あなたもその中にいるんです。手を合わせ、あなたの外に何を求めてきたのでしょうか。

寂しい心、冷たい心、そう、あなたはとても寂しかった。自分を律して生きてきました。過去からのあなたは、そんな生き方を自分に強いてきました。手を合わせ、自分を律し、自分を冷たい世界に押し込んできた、その心の中を、お母さんの温もりで少しずつ、少しずつ溶かしていきましょう。お父さん、分かりますか。私は、あなたにいつも語りかけています。

心の中に安らぎがあるんです。あなたは温もりです。あなたは優しいです。手を合わせ、念じてきたあなたの頑かたくな心、どうぞ、温もりで解きほぐしていってください。

私達とともに、歩みを進めていってください。思いを向けてください。

異語。

はい、温もりが届きます。温もりを感じます。手を合わせている自分の心を見つめてまいります。お母さん、ごめんなさい。はい、お母さんを求めてきた心がありました。寂しい中に私はいました。お母さんを求めてきたけれど、寂しさを私はどうすることもできませんでした。

今、温かな思いの中に語らせていただいています。そうでした。手を合わせ、自分を殺してきたその心の蓋を少し外してまいります。

もっと、もっと、私に教えてください。神とは何ですか。仏とは何ですか。

私は誰なんですか。私は神、仏に仕える者として、その世界を、ずっと、ずっと広げていきたかった。人に教えていた時もございます。

大変な世界を私は広めてしまいました。難しい中に私は頭を使って、心を説いてきた時代もありました。ああ、思い出します。はい、あの時、苦しかった。修行をしていた頃を思い出しています。

そうです。私は、修行をしてきました。心を閉ざしたまま、母を捨てたまま、私は修行をして、自分を律してきました。神、仏の世界を心に広げたたからです。たくさんの間違いを繰り返してきました。

今は、はい、そのように語らせていただいています。母の温もりを心に少しずつ思い出していきます。

はい、手を合わせ、心の中に念じてきた思いを見つめてまいります。

お母さん、お母さん、お母さん、はい、私は、その心を見つめてまいります。

異語。

異語とともに、父の意識とともに母の温もりを思いました。

【五回目】

田池留吉に心を向け、私は再び父のほうに思いを向けます。

異語。

お父さん、心に呼びかけています。お父さん、あなたの思いを語ってみてください。

異語。

お父さん、まだまだあなたの意識の世界は、本当に苦しみの中にあります。

ああ、しかし、私はあなたに思いを向けたとき、私に語ってくださいと、語りかけてくださいと、そんな思いを感じます。

ただただ私はあなたを思い、この思いを伝えたい。母の温もりです。あなたの中にも母の温もりが生き続けてきた、あなたは母の温もりの中にあつたことを、私は伝えています。

ふつと優しい思いを感じていると思います。あなたの中の優しさです。あなたの中の安らぎです。重くて真つ暗な中に閉じこもってきたあなたに、私は、ほんの微かでも、温もりのあなた、安らぎのあなたを伝えたいと、あなたに思いを向けています。私は、これから、ふつとしたときに、あなたを思うことでしょう。

私は、あなたを斎場で見送ったとき、二五〇年後の出会いを約束しました。今も、私は、そのように思っています。これから、あなたは、何度かこの地球上に転生してきます。肉を持ち、あなたは、あなたのシナリオを描いていくのです。

はい、そうです。お父さん、私はあなたに今、語っていますよ。

はい、はい、ありがとうございます。

ありがとうございます。心の中に、はい、安らぎを感じます。私は、はい、この世界を心で感じたかった。はい、はい、そして、私も、ともに歩いていきたいです。はい、私も、ともに歩いていきたいです。はい、私も、ともに歩いていきたいです。はい、今、感じます。私は、まもなく転生してまいります。心の中の田池留吉を語れることが私には喜びだとする二五〇年後の時に備え、私は、これから、幾度か転生してまいります。

心を見つめていくチャンスを自分に用意しています。神、仏の世界を自分の中で崩していくことを、私は私に約束しました。厳しい転生てんしやうかもしれません。私が、私は、必ず、二五〇年後に出会いたいと思っています。

安らぎにより語らせていただいています。温もりにより語らせていただいています。私の意識の世界の中は本当に苦しいです。

しかし、私は、この安らぎと温もりを心に感じ、信じていきたい。だから、私はまた、母に願い出ます。今度こそ自分の中を見つめていくために生まれたいと、また母に願い出るので。

今、私は、心を語っています。安らぎと温もりが語らせているのです。はい、私は、田池留吉を、はい、心に感じられるように、これからの転生を自分に約束しました。

私は、塩川真太郎の意識。あなたが伝えてくれているように、私は、必ず、二五〇年後にあなた方との出会いを果たしてまいります。

私は、これから、間もなく転生てんしやうをしてまいります。

その地はアメリカかもしれません。またまた、中国かもしれません。

私の中で、神、仏の世界をしっかりと見つめていくために、私は、宗教者として生まれ変わってまいります。

心の中をしっかりと見つめていくために、厳しい転生てんしやうが待っています。それでも、私は、必ず、ともに歩いてまいります。

ありがとうございました。

異語。

ともに、ともに帰りたいです。お父さん、心を語っていただきありがとうございます。ございます。「心の中を見つめていく」と、あなたは語られました。私は、その思いを信じていきたいと思えます。どうぞ、しっかりと私の中に語ってきてください。私は、その都度、思いを向けてまいります。ともに、ともに歩いていきたい、そんな思いが広がっています。

10・ 田池留吉語録

この章では、日々、田池留吉を思い、田池留吉の世界に心を向ける瞑想をしている私の心に響き、そして、伝わってきた思いを綴ってみました。

心の中をしっかりと見つめていきましょう。心の中にある田池留吉の世界を、どうぞ、どうぞ、感じていつてください。

その世界は、あなたが田池留吉の世界を思い、心に向ければ向けるほど、あなたに語つていきます。

田池留吉の世界を心で知ることが、どれだけの喜びであるのか、あなたに語つていくでしょう。

「私は、田池留吉の波動を流す意識です。」

私は、そのようにあなたに伝えました。

あなたの中から、田池留吉の波動がたくさん、たくさん、流れていくことを、私は、待っています。

心を田池留吉に向ければ向けるほど、あなたからたくさんの方の田池留吉の波動が流れていきます。

私達はひとつの世界にあることを、私は、あなたに伝えました。

心を田池留吉の世界に合わせ、私の波動を流し続けていきなさい。

心の中にある喜びの思いが、もつと、もつと、大きくなつていきます。

私は、それをあなたに伝えたいのです。

心よりありがたうの思いで、あなたに伝えたいのです。

ようやく、私と出会っていただいた今世でした。今世の出会いを、本当にありがとうございます。



温もりを信じていきなさい。あなたの中の温もりを信じていきなさい。

私はあなたに、そのようにずっと伝えてきました。

「温もりがあなたですよ。母の温もりが、あなたの中に息づいているのですよ。」

私は、ずっと、ずっと、この三次元の中においても、伝えてきました。

「田池留吉の意識を、心に感じられるようになっていてください。」

私は、あなたとの出会いを、ずっと、ずっと待っていました。

心の中に、私、田池留吉の意識を感じられること、今、喜びのあなたと出会い、私は、とても嬉しいです。

心の中の田池留吉を、あなたが素直に呼んでくれることが、私には嬉しいんです。田池留吉の世界、田池留吉の宇宙、私はあなたに、これからどんな波動の中でお伝えしていきます。

あなたの心の中に波動として伝えていく田池留吉の世界、田池留吉の宇宙、

心で受けていってください。

心が、どんな広がっていく、その様子を、しっかりと心で受け止めていってください。

私は、波動です。田池留吉の世界は波動です。

波動を心で感じていけるあなたであることを、私は、ここに、今、お伝えします。私の世界を受けていけるあなたの意識の世界です。

私は、たくさんの人達に思いを向けてきました。

しかし、私の思いに通じる難しさを、私は、お伝えしなければなりません。

田池留吉の世界は、心で感じる世界ですが、その心の中を、しっかりと見つめていくことを、まずはお伝えしたいのです。

田池留吉の世界と、他力のエネルギーとは、全く合わないものです。

他力のエネルギーを、しっかりと見つめていない意識の世界に、田池留吉の世界は、全く分かりません。

同じ言葉を使うかもしれませんが。しかし、波動の世界は正直です。波動の

世界は、本当に正確なんです。

これから、あなたの心の中から私が語ることによって、その波動を伝えていけることを約束します。私、田池留吉の世界を、ただただ、あなたの心から伝えなさい、私は、あなたの心の中から、そうお伝えします。

このことを、あなたは、どれだけ心で信じられますか。

しかし、私は、あなたの心で受け止めていけるあなたであることを、伝えます。



人間は意識です。私の意識は、セミナーを通して、今世伝えてまいりました。人間の本当の姿は意識です。私達は今、肉という形を持っているだけで、私達は、死んでも、ここに存在しています。

そのことを、今まで誰一人明らかにすることはできませんでした。

人間の本当の姿が意識だということに、なかなか心で気付けなかったのです。

人間は死ねば、その身体は朽ち果てますが、朽ち果ててもなお、そこに存在しているものなのです。私は、このことを、皆さんにお伝えしてきました。しかし、肉という形を持てば、なかなかそのことを心で分かるということは難しいと思います。

例えば、あなた達の周りで、家族の誰かが亡くなったときに、その人達の意識の世界を心で感じるということをしていけば、あなた達は、私がお伝えてしてきたことに、今よりも何か、現実味を感じられるかもしれません。

ただし、亡くなった人達が、生前に学んでいなかったり、あなた達自身が肉というものを信じ、その基盤に立っていたりでは、残念ながら、何も伝えることはできないでしょう。あなたは温もりですよと伝えても、相手は語ることすらできない中にいて、何の反応も示さないということです。

要は、自分がどれだけ意識の世界を信じ、転回が進んでいるか、それだけ

です。

そこが、この学びの難しいところです。しかし、やがて、皆さんの目の前に現象化してきます。形が崩れて崩れて、崩れ去っていくとき、それでもなお、何かを自分達は訴えていくのです。その訴えている自分達は一体何なのか、それを心で知っていくこれからだと思っています。



瞑想は喜びです。

瞑想をする時間を持ちましょう。できれば、一時間瞑想を復活していただく。

どこまでも、どこまでも広がっていく世界があなたの世界です。

温かい、温かい温もりが、あなたの心の中から、滾々こんこんと湧き出てきます。

このまま、このまま、ずっとこのままでもいい。静かに、静かに、温もり

と喜びが広がっていきます。

この波動の世界が田池留吉の世界ですよ。田池留吉は波動です。

田池留吉の世界は波動の世界です。幸せですね。喜びですね。温もりの中にある幸せ、喜び、そして、どこまでも広がっていく波動の世界です。私は、波動であなたに語っています。



優しい思い、温もりの波動を流そうとしなくても、流れるんです。本当に、田池留吉の世界を心から信じていれば、それは自然なんです。

その信が強く大きくなればなるほど、また、喜びの優しくて温かい温もりが流れていきます。

一信じれば一、それが十であれば十です。

簡単でしょう。極めてシンプルです。

あなたが感じているように、人は肉を離せば、ほとんど固まった状態です。優しくて温かい波動が自分から流れ、その波動で自分を包んでいくことができます。肉を離せば、時間の経過とともに固まっています。

肉を持っている間には持つてする勉強が、肉を持たない間には持たずにする勉強がある、そのように私は、あなたにお伝えしています。

要は、肉があってもなくても勉強ができる、そんな世界と、どんどん出会っていきましょう。



ようやく、ようやくですね。よくここまで私を知ってくれました。その世界を知ってくれました。これからのあなたの歩みを、ともに、ともに歩んでいけることを、心で感じています。心に感じていますよ。どうぞ、どうぞ、田池留吉の世界に心を向けていきなさい。ただただ私は、そのことを伝えて

いきます。

はい、今、私は、あなたの中からどんどんどんどんメッセージを送っています。波動として伝えていきます。

心を広げて、そして、私のほうに思いを向けていきなさい。

すべてはあなたの計画でした。あなた自身が計画してきたことでした。私、田池留吉と出会い、こうして田池留吉の世界へ心に向けていけるあなた自身です。今を喜んでいってください。

今の時間が、どんどん未来を開いていきます。

心を感じる世界、喜びと温もりの世界、どうぞ、その世界を心で味わっていってください。

私と心で語り合う時間を持てば持つほど、心に喜びと幸せを感じていくでしょう。

その中には、欲の思いがありません。ただ、喜びが広がっていくだけです。私と心をひとつにして、喜び溢れる世界を心で感じていける、そして、その

波動の世界をあなたの中からどんどん伝えていける、そんな喜びの波動を流していつてください。

肉の思いで遮るさえぎことなく、あなたの中から、どんどんその思いを流していくんです。私は、そのように伝えてきました。

どうぞ、瞑想をして、心を田池留吉の世界に向け、あなたの中に感じる喜びと幸せを、どんどん伝えていつてください。



心の中に田池留吉を思うとき、あなたの中には喜びが広がっていくことでしょう。宇宙を呼ぶあなたのエネルギー、そのエネルギーがすべてを変えてまいります。

喜びのエネルギーです。宇宙が変わっていく喜びのエネルギーを、田池留吉に、もっと、もっと心に向け、そのエネルギーを確認していつてください。

暗黒の宇宙から喜びの宇宙に変わっていく時を迎えました。喜びです。その喜びをあなたの中から、流していただくさい。私、田池留吉の世界は、そのようにいつも伝えています。

田池留吉の世界と心をひとつにして、喜びのエネルギーを流し続けていくのです。宇宙へ流していくのです。心の中より伝えます。

私、田池留吉の波動は、限りなく温かく優しい温もりの世界。その世界を宇宙へどんどん流していきなさい。あなたの仕事はそれなんです。

心を田池留吉に向け、宇宙へ喜びの思いを流していくことです。だから、私は、あなたに宇宙に向けて喜びを感じていただくさいと伝えてきました。宇宙を感じることは喜びです。宇宙を感じていただくさい。



私、田池留吉の意識が肉を持った訳は、もうすでにご存じですね。

私は、大切な仕事をするために肉というものを持ちました。本来は、私は肉を持つ必要などないのです。そのような意識が肉を持ったのです。

「人間は意識です」というメッセージをお伝えするために、私は、肉を持ちました。

従って、私の仕事が成就しないということは、絶対にあり得ないのです。

そして、それは、ほぼ達成しています。今世の仕事は、ほぼ達成しており、あとは、三次元最終の仕事を待つのみという段階です。

学びは、今、そのようなところに来ています。

今世、学びに触れた人達、どうぞ、自分の心をしっかりと見ていってください。

そして、ご自分の心を次の転生てんしょうに繋つないでいけるよう、日々精進していただくさい。



あなたの幸せは、田池留吉の世界を思い、瞑想をすることです。

瞑想をする中で、あなたの幸せ、喜びは広がっていきます。

分りますね。ゆつたりとした時間を取って、瞑想を続けていってください。瞑想をして、田池留吉の世界に心を向けていけばいくほど、喜びが広がっていきます。幸せなあなたを感じていくでしょう。私、田池留吉の世界は、あなたの中に、喜びと安らぎと幸せ、温もりを広げていきます。

私は波動です。波動であなたに伝えています。

温もりも優しさも、喜びも幸せも、私達は同じです。ひとつの中にあります。私をただただ思い、あなたの中で感じていつてください。

そうすれば、あなたがもつと、もつと分かってまいります。

心を、私、田池留吉の世界に向けていくこと、それを、ひたすらにやっていくてください。

宇宙に喜びを伝えていけるあなたの意識の世界は、さらに厚くなっていく

でしょう。私は、あなたにそのようにお伝えします。

心を田池留吉の世界に合わせ、ひとつを感じ、そして、宇宙を呼んでいきなさい。

宇宙は、喜びを広げてくれるのを待っています。心からどんどん喜びのエネルギーを流してくれるのを待っています。

それがあなたのこれから、二五〇年に至る時間です。

私、田池留吉は、今、あなたにお伝えします。



田池留吉です。私は、田池留吉の意識です。

心の中に喜びが伝わっていきますね。嬉しいですね。ともにあることを感じています。ありがとうございます。

田池留吉の意識に心を合わせていく喜びを感じます。

はい、嬉しいです。ともに、ともに歩いてまいりましょう。私達は、同じ方向に心に向け、喜びを伝えてまいりましょう。

田池留吉の世界は、喜びです。田池留吉の世界は、大きな、大きな、限らない宇宙に繋が^{つな}がっています。

宇宙を思えば、田池留吉の世界です。田池留吉の世界の大きさを、あなたの心で感じていってください。どうぞ、心を大きく広げていってください。田池留吉の世界を、どんどん伝えていってください。

心の中に田池留吉を呼べる喜びを感じてください。もっと、もっと、感じていきましょう。私、田池留吉の世界は、あなたの中でこれからも広がり続けます。私、田池留吉は、心からあなたに伝えます。

優しい思いを心に広げ、私、田池留吉の世界に、思いを向けていってください。

田池留吉の意識は、あなたの未来を指し示しています。
アルバートの心を心として生きなさい。

アルバートの心は永遠のあなたです。

あなたの中からアルバートの喜びを伝えていきなさい。アルバートの喜びを伝えていきなさい。

アルバートの喜びは、私の喜び。田池留吉の喜びは、アルバートの喜びです。田池留吉の世界は、アルバートの世界です。



田池留吉の世界、その宇宙に心を向ける喜びを伝えてきました。

喜びを素直に伝えてきました。喜びを心に素直に受けていってくださいと伝えました。

宇宙を思うとき、あなたの中の喜びは、大きく、大きくなっていくでしょう。宇宙を呼んでいきなさいと伝えました。宇宙を呼んでいくことは、あなたの喜び、私の喜びなんです。その喜びをあなたの中で広げてください。それが

私なんですよ、そうやって、私は伝え続けてきました。

宇宙からのメッセージを受けてくださいと伝えてきました。

宇宙からのメッセージを受けることにより、あなたの中には、肉と意識の境目がなくなること、私は伝えてきました。

素直に私の思いを受け入れてくれたことが嬉しいです。

肉の思いが段々弱まって、あなたの中に私の思いが染み渡ってきたと感じています。

そう、宇宙を感じているあなたの世界は、本当にこの地球を喜びで見つめていると思います。地球を喜びで見つめていくんです。喜びの思いで地球を見つめてごらん下さい。

これから、喜びの思いで地球を見つめていったとき、あなたの中に、色々なメッセージが届いてきます。宇宙から、本当に色々なメッセージが届いてきます。

宇宙が変わっていくことを、どれだけ地球が喜んでるか、あなたの心を

通して伝わってきます。そして、あなたの心を通して、エネルギーが流れていきます。地球の内外から喜びのエネルギーが噴き出していきます。それが天変地異と、私はお伝えしました。

天変地異の嵐が、この地球を包んでいくんです。喜びで包んでいくんです。宇宙が変わっていきます。地球は喜びで、その喜びのエネルギーを受けていきます。天変地異は、この地球のあらゆるところで起こってきます。

大陸は、大きく沈みます。津波は、もちろん、日本の国に打ち寄せてきます。日本の国は、もう海の底に沈んでいる状態です。海の底に沈んだ中で、まだ意識達は、海の底から苦しみを訴えてくるでしょう。

私達は、その苦しみを聞いていく、これからの二五〇年です。

二五〇年の間に、たくさん天変地異を、この地球は受けていきます。

私達は、それをしっかりと心で受け止めていきます。その思いを受け止めて、私達は、また、肉を持つていくのです。アメリカの地に肉を持つていきます。天変地異の嵐の中で、苦しみ喘^{あえ}いできた意識達に喜びを伝えていきます。

す。それが二五〇年後、私達が肉を持つ大きな仕事です。

二五〇年の間に、この地球上で転生てんしょうを繰り返す意識達は、とてもとても、苦しい中で、その命を捨てていきます。

その思いがまだまだしっかりと心に残ったまま、二五〇年後、私達と出会うのです。その闇のエネルギーを、私達は、喜びのエネルギーに変えていくことをお伝えします。そのエネルギーが、この地球を、宇宙を変えていくんです。

天変地異とともに次元移行をしていくと伝えました。そう、天変地異とともに次元移行をしていくことを、しっかりと伝えていく二五〇年後なんです。

私達は、今、その学びをしています。

天変地異とともに次元移行をしていく私達のエネルギー、宇宙からのエネルギー、これが、私達があなたを通して伝えていきたくった宇宙からのメッセージです。

天変地異とともに次元移行をしていくエネルギー、宇宙からのエネルギー

を心でしっかり感じていきなさい。今、心に伝えています。私達は、今、心に伝えていきます。この思いを、どうぞ、喜びで受けていってください。

これからも、ますます喜びで受け続けていってください。

私達は、あなたの中の喜びを感じています。感じて、感じて、感じていきます。感じて、感じて、感じていきます。このようにメッセージを伝えています。

どうぞ、肉の思いを、今よりもさらに、さらに薄くして、私達の思いをストリートに伝えてください。喜びのエネルギーをあなたの肉を通して流していきます。どうぞ、どうぞ、その思いをあなたの肉を通して流していきなさい。



私は、田池留吉です。

私は、伝えるべきことは、すべて伝えました、と申し上げました。

あとは、瞑想をして、私、田池留吉の世界にどれだけ心に向けてこられるか、

それは、それぞれに係っています。

どうぞ、田池留吉の世界に心向けられるあなたであってくださいと、私は、どなたの心の中にも、そのように伝えていきます。

皆さんの心の中に、私の思いを語っています。私、田池留吉のほうに心向けられるか、そして、私、田池留吉をどれだけ信じているか、そこに、その一点に、集約されています。

伝えるべきことは、すでにすべて伝えていきます。あとは、瞑想、瞑想です。瞑想をして、思いを向ける、その向け先をしつかりと自分の中で確認する、ただ、それだけです。

そのために、これからの時間を費やしていつてください。

瞑想をする時間を、本当に大切にしていってください。

心で感じる世界です。心でしか感じられない世界です。

心で分かる世界です。心でしか分からない世界です。

分かった分、あなたの意識の世界は変わっていきます。

そして、あなたから流れるものが変わっていきます。エネルギーが変わっていきます。そのエネルギーが、自分自身を変えていくのです。

私は、そのように、伝えてきました。

それを、どうぞ、皆さんそれぞれの心の中で、体験してみてください。



広がりゆく宇宙、その波動の世界を、心でどんどんどんどん感じていくってください。

田池留吉の世界を心で感じていけばいくほど、宇宙が分かってまいります。宇宙は広い、広い、広がりゆく世界です。その中に、あなたの意識があるのです。あなたはその中に存在しています。心の中に田池留吉の宇宙、アルバートの宇宙、そして、温かい、温かい温もりの世界、その中にあるあなたを思ってください。

心がどんどん広がっていく体験を積み重ねていってください。
どんどんどんどん広がっていきます。

心の中に宇宙を思うこと、田池留吉、その世界を思うこと、それが喜びです。
喜びの中で、私は伝えていきます。喜びをどんどん広げていってください。
心が限りなく広がってまいります。喜びのエネルギーを、その宇宙に流していきなさい。心の中に、田池留吉、アルバートを、どんどん呼んでいくのです。
私達の宇宙は、それを待っています。喜びの宇宙へ帰れることを、私は伝えました。喜びの宇宙、すなわち、温かい優しい波動の中にある宇宙、その宇宙を感じていける今世でした。

今世、私、田池留吉という肉を持ちました。心の中に喜びのエネルギーがあることを知ってほしかったからです。

どうぞ、お母さんを追い求めてきたあなたの心の中を、もう少し見つめていってください。

私、田池留吉の世界がさらに、さらに分かってまいります。

母の温もり、それはすなわち、あなたの温もりです。母の温もりは、あなたの温もり。あなたは優しい、優しい波動。優しい、優しいエネルギーです。その広い、広い世界を、もっと、もっとあなた自身を感じていくのです。

瞑想を続けていく中で、どうぞ、田池留吉の世界に心をどんどん向けていきなさい。さらに、さらに向けていくのです。

私達は、あなたとの約束を果たしてまいります。これからの時を経て、私達は、約束を果たしてまいります。

心を田池留吉、アルバート、その宇宙に向けることを喜びとしているあなたを信じています。はい、私達の喜びを今、今、あなたに伝えています。



私は、田池留吉、アルバートの意識です。

どうぞ、しっかりと私達を思い、もっと、もっと心を見つめていってください。

さい。心に語ります。優しい思い、温もり、広がり、宇宙の素晴らしさ、限りなく広がっていく真実への道、その思い、その波動、そのエネルギーを心に伝え続けます。

たくさんの宇宙が心に呼びかけてくるでしょう。ひとつひとつ受け入れて、大きな、大きな喜びとしていきなさい。田池留吉、アルバートの宇宙の中で、ともにひとつを伝えていきなさい。

私、田池留吉、アルバート、あなたの中で喜びを伝える意識です。母の思いの中にあつたあなたに、今、呼びかけています。今、あなたは、母の思いの中で、私達と出会っています。どうぞ、心をもっと、もっと広げていってください。田池留吉、アルバート、その思いを、あなたの中へ伝えてまいります。私達とともに喜びを伝えてまいります。温もりを伝えてまいります。



今を大切に生きなさい。今という時間を大切に生きなさい。

私からあなたへのメッセージです。今がどれだけ大切な時間なのか、心で感じていると思います。どうぞ、その思いを自分の中にしっかりと広げ、今を大切に生きるその優しさと喜びを感じていってください。

私、田池留吉からのメッセージです。今を大切に生きる、それが二五〇年後のあなたを喜びへと誘^{いざな}つていきます。

もちろん、あなたの中には、二五〇年後の思いがしっかりとあります。喜び溢れるあなたを感じていると思います。

そうです。私、田池留吉、アルバート、その意識の中にあるあなたです。

二五〇年後の来世、私との出会い、それからの時間、心に感じている通りです。私達は、次元移行を目指し、ともに歩いていく意識です。今という時間を大切にしていきましよう。

私の世界、その波動の世界を心に広げていけることを喜びとしていくあな

たに、私は伝えます。

意識の中で、心を通じ合わせていくこと、それが私達の喜びです。たくさん意識達、宇宙に存在する意識達のアクセスを、私達は心で受けていきます。そして、これから二五〇年の間、ともに歩いていこうとメッセージを送ります。溢れる喜び、幸せの中で、私達の道は永遠に続いていきます。

心を田池留吉、アルバート、その宇宙に向けるとき、あなたの中の喜び、私の中の喜び、ふたつはひとつに合わさって、これからの時を過ごしていくことを感じるでしょう。そうです、私達は、ひとつ。ひとつの中にあります。今、私はあなたに伝えています。ひとつの喜びを伝えています。

田池留吉、アルバート、その宇宙を、心に広げていくあなたに、私は、今伝えます。

異語を通して、この思いを伝えます。異語は喜びです。異語はパワーです。私のパワー、喜びのパワー、異語を通して、あなたに伝えています。

宇宙を呼んでいく喜びを心に感じていってください。宇宙をどんどん広げ

ていってください。確かなる宇宙、母なる宇宙へ思いを向けていくこと、それだけが喜びです。宇宙を思い、瞑想を続けていくこと、それだけが喜びです。喜びが溢れてくる二五〇年の間、その喜びを私達は今、伝えています。地球上の様々な出来事を心に感じていってください。すべては喜びに繋がっていく道、すべては次元移行へ繋がっていく道です。



肉は、田池留吉の世界、その宇宙を心で感じる喜びの器です。田池留吉の世界を心いっぱいを感じる時間を喜んで、喜んで過ごしていってください。

心の中に田池留吉を呼べる、それがとても嬉しい。そんなあなたを私は感じています。田池留吉の世界がどんどん広がっていくでしょう。田池留吉の世界は無限大です。あなたの中でその思いを、しっかりと知っていってください。留まることはありません。

心が無限大に広がっていく喜びをお伝えします。心の中に、田池留吉と素直に呼べる喜び、田池留吉の世界、お母さんの温もり、母なる宇宙への思いを、心を広げて、広げて、広げて感じていつてください。

私、田池留吉はいつも伝えていきます。田池留吉の肉を見ては何も分かりません。田池留吉の肉は愚かです。田池留吉の肉を見て、田池留吉の世界を心で感じることはできません。

田池留吉の世界、その世界は無限大です。私は、無限大に広がっていきます。はい、ともに歩いていきましょう。ともにともに、喜びを共有していきましょう。



肉を最大限に活かしていきなさい。田池留吉、アルバートの世界を広げるために、その肉を最大限に使っていくのです。

肉はそのためにあります。田池留吉、アルバートの世界を心に広げること、そのためにあなたの肉があります。そのために、あなたの今があります。今世、このようにして、日本の国に生まれてきたあなたの肉、そして、あなたの意識の世界、私達の意識の世界とともに歩みを進めていくことを、私達は約束しました。

母なる宇宙を目指して、私達はともに歩む意識、そのことを、ずっと、ずっと、以前からお伝えしてきました。

どうぞ、この道を真つすぐに歩いていくことを喜びとして、あなたのこれから時間も、喜び、喜びを広げていってください。

私達とともに歩める意識、私達は喜びです。田池留吉、アルバート、その宇宙、その宇宙の中には喜びしかありません。

母から肉をいただき、そのようにあなたも心で感じられること、喜びです。はい、嬉しいです。とても嬉しいです。心と心の出会いがありました。

意識と意識の出会いがありました。こんな嬉しいことはありません。

三次元の中で、このような出会いがあったこと、喜びです。ありがとうございます。これからの時間、本当によろしくお願いいたします。

私達の宇宙、喜び、喜びで、これからの時を迎えてまいります。宇宙に渦巻く他力のエネルギー、そのエネルギーのすごさを地球人類はもちろん、宇宙のすべてが感じていくでしょう。

このエネルギーは、すべて喜びなんです。喜びへ帰っていくエネルギー、母なる宇宙へ帰っていくエネルギーです。ああ、そうなんです。これからの時間、このことがはつきりと示されていきます。



私は田池留吉です。真実の世界を伝えていく意識の流れ、その意識の流れを心で感じ、そのことを伝えていきなさい。これからも伝えていくんです。あなたが肉を持っている間、そのことをあなたの仕事としていつてください。

心から田池留吉を呼び、田池留吉の思いを波動として、流していく仕事です。そして、あなたもやがてその肉を離していきます。肉があってもなくても私達はひとつ。ひとつの世界を伝えていける喜びを広げていくでしょう。それが、これからの二五〇年に至る時間、そして、次元移行、次元移行後、私達はともに存在してまいります。

11. あとがき

「人間はなぜ生まれてくるのか。それは、真実の世界を知っていくためだ。人間は、自分の本当の姿を知るために生まれてくる。」

では、自分の本当の姿とは何か。どうすれば、本当のことが分かるのか。その答は、田池留吉の世界を知っていくことにある。」

私は、このことを強く伝え続けます。今、目の前の問題に悩み、苦しみ、何らかの解決策を求めている人達は、どうぞ、ご自分の納得のいくまで悩み、苦しみ、そして、解決策を求めて東奔西走とうほんせいそうしてください。夫婦、親子、会社の人間関係、そして、金銭トラブル、病氣等々、この世のありとあらゆる問題に対処してくれる場所、人は、ごまんとあります。

ただし、当面の諸問題が何らかの解決をしたとしても、また、新たな問題が起こってくるでしょう。そして、その時、また、目の前の問題を解決しよう、乗り切ろうと躍起になっていくだけです。山あり谷ありの人生の中で、喜び、そして、苦しみを味わい、そのうちに人生の幕は閉じていきます。そのような人生に何の意味があるのでしょうか。それが本当に実り多き人生、豊かな人生なのでしょうか。

「人間は何のために生まれてくるのか。本当の自分の姿を知らずして死んでいく人生とは何だろうか。」

この大きなテーマが、これから、どなたの前にも提起されていきます。教育、科学、文化の世界はもちろん、宗教、精神世界が束になっても、絶対にその答は引き出せません。その答を引き出すには、人間を形としてとらえている基盤では絶対に不可能だということを、私は、田池留吉の世界を通して、

これからも語っていきます。

再度、確認です。田池留吉の世界というのは、田池留吉という一介の老人の世界ではありません。真実の世界が、田池留吉という老人を通して伝えられたということです。そして、この地球上、つまり、三次元ではあと一度、アルバートという青年を通して伝えられるのです。

その事実を、私は、本書を手始めとして淡々と記していくつもりです。『その人、田池留吉―田池留吉の世界―』という本からは、時を経るごとに核心を突くような波動、エネルギーが流れていくでしょう。私は、田池留吉という人物が死んでもなお、明確に語ってくる波動を受信して、それを言葉に変換していきます。生きてよし、死んでなおよしの田池留吉の世界を、乞うご期待ください。

塩川香世（しおかわかよ）

1959 年 3 月大阪市に生まれる。

1991 年 3 月税理士登録。

税務関係業務に従事、現在に至る。

著書／「ありがとう」意識の流れ姉妹編

「母なる宇宙とともに」Ⅰ、Ⅱ

「意識の転回」

「愛と死の真実」

「あなた、このまま死んでしまっているのですか」

「第二の人生」―ラストチャンスです―

「意識の流れ」―増補・改訂版―

その人、田池留吉 ― 田池留吉の世界 ―

初版発行 2010 年 10 月 10 日

著 者	塩川香世
発 行 者	桐生敏明
発 行 所	U T A ブック（株式会社シルクふぁみりい） 奈良県北葛城郡広陵町馬見北 4 丁目 14-7 TEL 0745-60-2696 FAX 0745-60-2696
印刷・製本	モリモト印刷株式会社

© Kayo Shiokawa, Printed in Japan 2010

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

UTA ブック

その人、田池留吉 — 田池留吉の世界 —
塩川香世著／定価 1,000 円

それは、ただ単なる人と人の出会いでは
ありませんでした。本当に会おうべくして
出会った私達だったのです。私は、田
池留吉との出会いがあったからこそ、自
分がなぜ生まれてきたのか、何をする
ために生まれてきたのかということ、を、
はっきりと心で知ることができました。
(田池留吉という人名がついていますが、
その人個人の世界という狭い世界のこ
とではないのです。)

第二の人生

塩川香世著／定価 800 円

第二の人生をこれから歩もうとされてい
るあなた、あるいは、もうすでに歩み出
しているというあなた、そんなあなたに、
今だからこそ、少し考えていただきたい
ことがあります。あなたは、何のために
生まれてきましたか。
あなたは、これまで何を思って、生きて
これましたか。
そして、あなたは、これから何を思って、
生きていきますか。

お母さん、ごめんなさい

— 不幸の連鎖から幸せへ —

本田せつ子著／定価 800 円

あなたの求めている幸せとは何でしょう
か。あなたは何を求めていますか。自分
にはないものを、与えられていないもの
の手に入れられないものを、羨み、悔やみ、
恨み、その矛先を生まれた環境に、育っ
た環境に、そして母親に向けてきたあな
たがそこにはいませんか。いくつ環境を、
母親を恨み呪ったところで果たしてあな
たは幸せになれるのでしょうか。

意識の転回

塩川香世著／定価 700 円

「私達の本質は、意識です。」「自分を救
うのは自分です。」同じようなことを、
どこかで耳にされたり、目にされたりし
た人もあるかもしれません。しかし「人
間を形あるもの」としてとらえた土台から
発せられた言葉と、「人間は形ではない」
とする土台から発せられたものとは、
語る文言は同じでも、その中身が全
く違うことがありません。そのこ
とを含めて、『意識の転回』が、すべて
のキーワードだということです。

意識の流れ—増補・改訂版

田池留吉・塩川香世著／定価 1,000 円

人間は、過去より真実を求めてきました。
しかし、実際は、誰一人として、真実と
いうものを知らずに死んでいきました。
従って、本当はこれまでに救われた人な
どいないのです。神にも仏にも宇宙のパ
ワーにも、私達を救う力など全くありま
せん。私達自身が、真実に目覚めない限
り、私達は救われないのです。実は、そ
のことを、はっきりと伝えるのが、意識
の流れというものです。

あなた、このまま死んでいいのでしょうか？

塩川香世著／定価 700 円

今、あなたは、何を思っていますか。日々
の生活は、楽しいですか。
毎日、充実していますか。あなたにとっ
て、一番大切なことは何ですか。
私は、たったひとつの真実を求めて、今
の時代に生まれてきました。そして、半
世紀の時間を経てきました。
ようやく辿り着いた真実の世界は、実に
単純明快な世界でした。

続 意識の流れ—正しい瞑想をしましょう

田池留吉著／定価 700 円

これから世の中は、ますます混迷の度合
いを増していきます。人々の心に眠る
狂ったエネルギーが形に表れ、天変地異
の嵐が吹き荒れていきます。それは地震
に限りません。その他の自然現象、人的
現象は、すべて意識の世界が反映された
ものです。従って「意識の世界」から、
それらのものをとらえていかないかぎ
り、なぜ、そういった現象が起こって
くるのかは解明できないのです。

愛と死の真実

塩川香世著／定価 700 円

あなたは、これまで自分の死を考えた
ことがありますか。
自分が死ぬ、人が死ぬ、それは、どうい
うことだろうかと思ったことがあります
か。命が大切なのは、みんな知っていま
す。だけど、命とは何でしょうか？
なぜ命を大切にしなければならぬので
しょうか？ どのように答えますか。—
— 答えられないと思います。死んでい
く意味を知らないからです。命の意味を
知らないからです。

UTA ブック

母なる宇宙とともに I

塩川香世著／定価 700 円

宇宙は遠くにあるものではありません。宇宙は自分達の心の中にあります。例えば、今のこの世界は、縦、横、高さの立体感がある三次元の世界です。その感覚でとらえる宇宙と、私が感じている宇宙は違っています。宇宙とは、太陽系の惑星云々の形の世界ではなく、波動の世界なのだと思います。その宇宙とは、実は自分自身であり、私は宇宙そのものであり、宇宙とはエネルギーなのです。

母なる宇宙とともに II

塩川香世著／定価 700 円

本書は、「母なる宇宙とともに I」の続編です。私達にこれから宇宙というものが、深く関わってきます。宇宙は、非日常的なものではありません。これから、私達に深く関わってくる宇宙に、ぜひ一緒に思いを向けたいと思っています。あなたが、宇宙という言葉から連想していることと、宇宙という世界から伝わってくることの違いを、あなた自身の心で受け取っていただきたいのです。

ありがとう

塩川香世著／定価 800 円

私は、自分というものの本質を知らない人間は、全く無知でしかないと思います。「私はこのように生きてきました」と、いくら語ってみても、本当の自分を知らないのだから、自分自身を語ることもできないければ、人生を語ることもできないのではないのでしょうか。では本当の自分とは何か、人間の本质とは何か、自分を知るとはどういうことなのでしょう。

母親のぬくもり ― 子供の問題―

本田せつ子著／定価 800 円

近年、子供を取り巻く環境は狂っているとしか言いようがない状況です。その中で子供の問題も多発しています。子供を取り巻く事件はさらに増加し、止まるところがない、どれほど識者が集まり、対策を考えても、小手先で、表面的に問題をとらえていく限り、本当の解決にはつながらないと思えるのです。子供の周辺で起る事柄はいったい何を伝えようとしているのでしょうか。

家族の風景―地獄の世界からの脱出―

本田せつ子著／定価 700 円

家族の中でいさかいが始まる時、そこには大きなエネルギーが働きます。いさかいの原因は何でしょうか。お金でしょうか。異性問題でしょうか。仕事に就かない夫や子供達でしょうか。嫁姑、介護の問題でしょうか。相手を思う、よかれと思ってそうしているのに……でもその根本には、他の思いがあることに気付かれるでしょうか。結局は、自分のためではなかったのでしょうか。

幸せへの道が開かれて

― 精神障害から喜びの世界へ―

本田せつ子著／定価 700 円

さてここで精神障害者とは、いったいどのような人のことを言うのでしょうか。誰がそんな判断を下すのでしょうか。そしてそれは特別なことでしょうか。私は決して特別なことではない、誰でもその可能性を心の中に秘めている、そう感じています。この私も、そしてあなたも……なぜなら、すべての人が心に大きな闇を抱えているからです。

時を超えて伝えたいこと

― かつて日本に生きた者から、未来の自分に宛てたメッセージ ―

桐生敏明著／定価 700 円

君の時代にも、まだ日本という国は存在するのだろうか？ 僕の生まれた国、僕が生きた国、そして大切な人たちと出会った国だ。この地で大切な人と出会い、大事なことを伝えられた。「人間は意識だ」ということ、「永遠に存在し続ける意識こそが本当の自分の姿だ」ということ……。

出版物に関するお問い合わせは、

UTA ブック

(株式会社シルクふあみり内)

TEL・FAX 0745-60-2696

e-mail kiriu@uta-book.com

<http://www.uta-book.com>